CAR MATE
0382-0921A

# スーパーバリケードSQ5000

# 〈取扱説明書・保証書〉

# 目　次


ページ

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

警告・注意事項（必ずお読みください） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

SQ5000の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

内容物・各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

リモコン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
リモコン充電スタンド・家庭用充電アダプター・車載用充電アダプター・2段階ショックセンサー ・・11
アンテナユニット・6音色サイレン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
メインユニット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
ドアロックコード・ショックセンサー接続コード・ドア検出コード・オプションケーブル・リセットスイッチ・・ 14
その他付属品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

使いかたの基本 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

リモコンの充電を行なう（家庭用充電アダプター） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
リモコンの充電を行なう（車載用充電アダプター） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
リモコンの電源スイッチを入れる ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
セキュリティをONにする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
セキュリティをOFFにする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
リモコンでエンジンをかける ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
リモコンでエンジンを止める ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
センサー反応時の動作について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- ●鳴っているサイレンを止めるには
- ●圏外時の通報について
- ●通信インジケーターについて
- ●リモコン通報の「履歴表示」について
- ●アイドリング中に働くセンサーについて

ターボタイマーを使用する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

応用操作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

リモコンのブザー音を鳴らさないようにする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
リモコンのボタンをロックして誤操作を防ぐ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
セキュリティレベルを切り替える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
セキュリティレベルの標準設定を変更する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
ドアロックしたままセキュリティのみ解除する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
パニックアラームを鳴らす ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

ページ

**基本的な本体設定** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
2段階ショックセンサーの感度を調整する ・・・・・・・・ 38
エンジンスターターのセルモーター回転時間を設定する ・・・・・・・・ 39
ターボタイマーを使用するかどうか選択する ・・・・・・・・ 40
2段階ショックセンサーが反応した時の警報レベルを変更する ・・・・・・・・ 41
サイレンを鳴らさずセキュリティをON/OFFする ・・・・・・・・ 42
「注意」および「警告」のサイレンを鳴らさないようにする ・・・・・・・・ 43
LEDスキャナー機能のON/OFFを設定する ・・・・・・・・ 44

**システム初期設定** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
エンジンスターター機能設定 ① サイドブレーキ検出の設定・・・・・・・ 46
エンジンスターター機能設定 ② P/N検出・フットブレーキ検出の設定・・ 47
エンジンスターター機能設定 ③ ホンダABS装着車に取付ける場合の設定・・ 48
エンジンスターター機能設定 ④ ノイズ検出モードの設定・・・・・・・・・ 49
エンジンスターター機能設定 ⑤ グロータイムの設定 ・・・・・・・・・・ 50
エンジンスターター機能設定 ⑥ 自動停止時間の設定 ・・・・・・・・・・ 51
ターボタイマー機能の動作時間設定 ・・・・・・・・・・ 52
ボンネットオープンセンサーを使用する場合の設定 ・・・・・・・・・・ 53
スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定 ・・・・・・・・・・ 54
電流センサーのON/OFF設定 ・・・・・・・・・・ 55
電流センサー感度の選択 ・・・・・・・・・・ 56
撃退警報時間の設定 ・・・・・・・・・・ 57
オンタイマー機能の時間設定 ・・・・・・・・・・ 58
エンジンスターター/ターボタイマー作動中の撃退入力検出の有無設定・・・・ 59
サイレントモード作動中のデータ出力コード（橙）に対する撃退出力の有無設定・・ 60
P/N検出時のST1/ST2切替 ・・・・・・・・・・ 61
P/N検出データの設定方法 ・・・・・・・・・・ 62

**取付け後のメンテナンスなど** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
スペアリモコンを使用する（リモコンIDの書込み方法） ・・・・・・・・・・ 64
リモコンの電池交換について ・・・・・・・・・・ 65
交換用ヒューズについて ・・・・・・・・・・ 66
バッテリー交換時やリセットスイッチ使用時などのP/N検出データ再設定について・・・ 67
エンジンスターター機能が作動しない場合 ・・・・・・・・・・ 68
故障かな?と思ったら ・・・・・・・・・・ 70

**仕様** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74

**保証書** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75

# はじめに

このたびは、スーパーバリケードSQ5000をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

SQ5000（以下本品という）は、増加する車両盗難や車上荒らしから愛車を守るカーセキュリティシステムです。

本書をよくお読みになって正しく使用されることが、本品の持つ高い防犯効果を最大限に発揮することにつながりますので、ご使用前に必ず一読願います。

また、お読みになった後も、いつでも見ることができるよう、大切に保管しておいてください。

※本品を譲られる場合は、次に使用される方に本書も併せてお渡しください。
※誤った取付け、使用による事故、破損等の責任は一切負いかねます。
※本品使用中に、万一取付車に盗難等の被害が発生しても、当社補償は一切ありません。

## 注意事項の定義

この取扱説明書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。
各々の定義（意味）を充分に理解された上で、お取扱いください。

**危険** 重大事故が起こる状況のもの

**警告** 人体に対し、危険が生じる恐れのあるもの

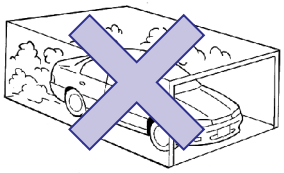
**注意** 物品を破損、故障させたり、セキュリティ能力の低下につながるもの

**参考** 取付け、取扱において知っていると有益な情報

# 警告・注意事項（必ずお読みください）

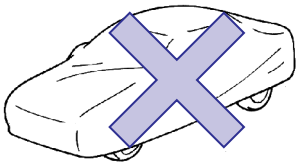
## 警告事項

**⚠警告**



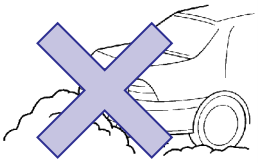
換気の良くない場所（ガレージ・立体駐車場・地下駐車場）で
エンジンスターター機能およびターボタイマー機能を使用
しないでください。
排気ガスが充満して大変危険です。

**⚠警告**



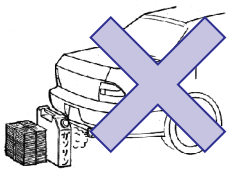
車にボディカバーを掛けたままでエンジンスターター機能
およびターボタイマー機能を使用しないでください。
火災の恐れがあります。

**⚠警告**



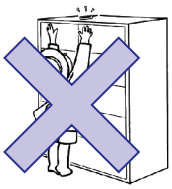
マフラーが雪で埋もれた状態でエンジンスターター機能
およびターボタイマー機能を使用しないでください。
排気ガスが車内に充満する恐れがあります。
また配線の損傷による車両火災の原因にもなりますので
大変危険です。

**⚠警告**



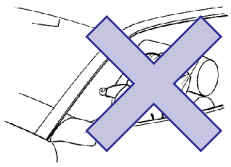
エンジンスターター機能およびターボタイマー機能は車の
近くに燃えやすいものがないことを確認してから、ご使用ください。
火災の恐れがあります。

**⚠警告**



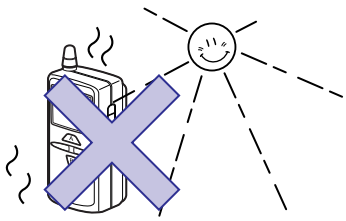
リモコンは、お子様の手に届く場所には置かないでください。
誤操作による事故の恐れがあります。

**⚠警告**



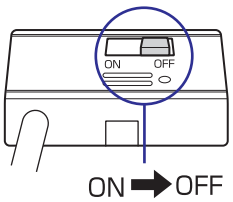
お子様などを車内に残したままで、使用しないでください。
事故の恐れがあります。

**⚠警告**



リモコンは、直射日光の当たる場所や暖房器具の近く等、高温に
なる場所で、保管または使用しないでください。
リモコンが高温になりやけどや故障の原因となります。

**⚠警告**




車を他人に預ける時（整備に出す等）リセットスイッチを
OFFにしてからお預けください。
誤作動による事故の恐れがあります。

**⚠警告**

運転中に本品の操作をしないでください。
事故の原因になります。

**⚠警告**

サイレンを作動させる場合は、離れて作動させてください。
聴覚障害の原因となります。

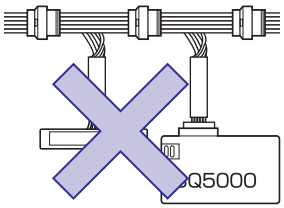
**⚠警告**

ターボタイマー機能を使用する際は、必ずシフトレバーが「P」の位置でキーを抜いてください。また、カウントダウン中にキーを
抜いたままシフトレバーを動かすことができる一部の車両は、カウントダウン中に絶対シフトレバーを動かさないでください。
事故の原因になります。

# 警告・注意事項（必ずお読みください）

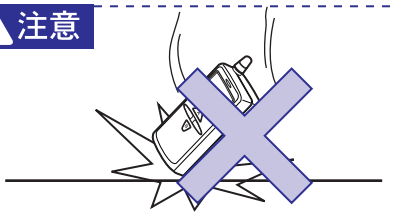
## 注意事項

### ⚠注意




ターボタイマー（スターター）や盗難警報機類との、
併用取付けはしないでください。
誤作動の原因となります。

### ⚠注意

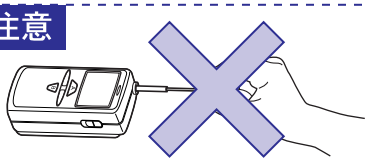


リモコンを床に落としたり硬いものにぶつけたりしないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合が
あります。

### ⚠注意

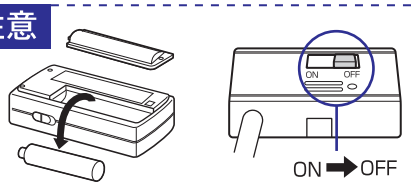
リモコンは直接水のかかる場所や湿気の多い場所で、保管
または使用しないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合が
あります。

### ⚠注意



リモコンのアンテナに強い力がかかるような持ち方をしないで
ください。破損の原因となります。

### ⚠注意




長時間使用しないときは、リモコンの電池を抜き、
リセットスイッチをOFFにしてください。
故障の原因となります。

### ⚠注意

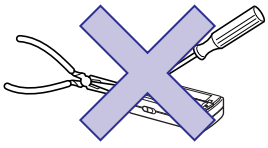
製品が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよく
絞ってから拭き、乾いた布でもう一度拭いてください。
ベンジン、シンナー等の化学薬品は、絶対に使用しないで
ください。 変形・変色や故障の原因となります。

### ⚠注意

サイレン部分の穴をふさがないでください。
穴をふさぐと故障の原因となります。

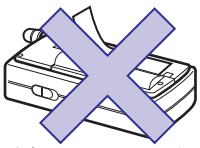
## 禁止事項

### ⚠禁止



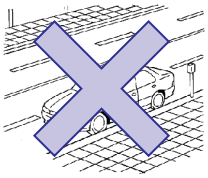
この製品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けて
おります。分解したり、改造することは、法律で禁じられておりま
すので、絶対にしないでください。

### ⚠禁止



製品に貼付の技術適合証明ラベルをはがしたり、ラベルのない
ものを使用することは、法律で禁じられておりますので、絶対に
しないでください

### ⚠禁止



安全な場所でご使用ください。道路で使用すると違法となります
ので、絶対にしないでください。

### ⚠禁止

12V車専用です。
トラックなどの24V車には、お取付けできません。

### ⚠禁止

この製品は、日本の電波法に適合しています。国外での使用は、
違法となる場合がありますので、おやめください。

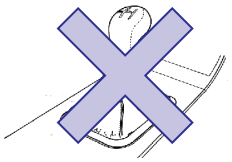
### ⚠禁止

一部地域では、暖機運転以外の目的でエンジンスターター機能を
使用すると条例違反となります。

# 警告・注意事項（必ずお読みください）

## 禁止事項

### 【以下の車両の場合エンジンスターター機能はお使いいただけません】



●マニュアル車は、エンジンスターター機能が使用できません。

**⚠危険**

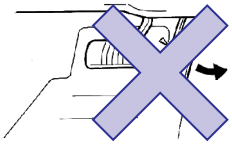
マニュアル車へTEハーネスを使用して取付けることは、絶対にしないでください。
マニュアル車は、冬季にサイドブレーキの凍結を防ぐため、サイドブレーキを引かずにギアを「ロー」もしくは「バック」に入れ駐車する場合があります。また、坂道などに駐車する際にもギアを「ロー」もしくは「バック」に入れます。
その際に、エンジンスターターを使用すると、無人走行の原因となり、思わぬ大事故につながります。

●外車は、エンジンスターター機能が使用できません。

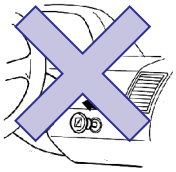
●キーフリーシステム・スマートキーシステム装着車は、エンジンスターター機能が使用できません。

●89年以前の車でシフトロックが装着されていない車（フットブレーキを踏まずにセレクトレバーが「P」から移動できる車）は、エンジンスターター機能が使用できません。

●エンジン始動時に下記のような場合にはエンジンスターター機能が使用できません。



［アクセル操作が必要な車］



［チョークレバーを引く車］

［年間通じて、キーを回して2秒程度でエンジンのかからない車］

●ホンダ車の雨滴感応ワイパー装備車は、エンジンスターター機能が使用できません。
取付けすると故障の原因となります。

**参考** 本品のリモコンはアンテナを一杯に伸ばした状態が最も良く電波の送受信を行える状態になります。このため、アンテナを縮めた状態の電波到達距離は短くなりますのでご注意下さい。

**参考** 電波到達距離は、周囲の環境や使用状況により異なります。車と送信場所との間に建物等がある場合には、電波到達距離が短くなります。

**参考** ほとんどの純正リモコンドアロック装着車は、車両の仕様上、エンジン始動中に純正リモコンドアロックが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能でのエンジン始動中は本品のドアロック/アンロック機能を使用するか、キーでドアを開ける必要がありますのでご了承ください。

**参考** 極まれに、本品と純正のキーレスエントリーの電波が干渉し、キーレスエントリーの作動距離が極端に短くなる場合があります。その場合は、弊社サービスセンターまでご連絡ください。

**参考** 本品のそばで大出力の無線機等を使用すると、無線機の発する電磁波により、誤作動や未作動の原因となる場合があります。

**参考** 本品の2段階ショックセンサーは、車体に与えられた衝撃をセンサーが感知しますが、車両の違いや取付状態の違いにより、感知する衝撃は変化します。取付後に必ず感度調整を行ってください。

**参考** 本品の電流センサーは、ドア開放時の室内灯の点灯（もしくは、ドアロックモーターの動き）による電流および電圧の変化を感知します。そのため、室内灯のスイッチが「DOOR」の位置になっていない場合は感知しません。また、ドアセンサーに関しても、配線場所によっては室内灯のスイッチが「DOOR」の位置になっていないと感知できない場合があります。

**参考** 本品のスターターカット機能は、TEハーネスで取り付けた場合のみ、機能します。従って、TEハーネスの設定のない車種（マニュアル車・外車など）では、スターターカット機能は使用できません。

**参考** オートライトコントロール装着車は、ライトスイッチがAUTOの位置でエンジンスターターを作動させると、オートライト機能が正常に作動しない場合があります。ライトスイッチは必ずOFFの位置にしてご使用ください。

**参考** オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車は、エンジンスターターでエンジン始動した状態でイグニッションキーを差込んでもオートチルトおよびマイコンプリセットが作動しなくなりますので、キーでエンジンを再始動してください。

# SQ5000の特徴



## セキュリティ機能

### ■常時アンサーバック機能（→P26）

●愛車に発生した危険レベルをリアルタイムにリモコンへ通報します。
●万が一、圏外時に異常が発生していたかどうかも、リモコンで確認することができます。（→P27）
圏外表示付きで、受信可能かどうかも一目で分かります。
●アンサーバック距離見通し最大3,600m。[当社実験値（注1）]
(注1): アンテナを伸ばした状態で見通しのよい場所（平地）での当社実験にて、記録した最大値です。電波到達距離は、周囲の環境や使用状況により異なります。
●充電式リモコン採用。1日6回のON-OFF操作で約100時間の連続使用が可能です。（注2）また、緊急時には市販の単4電池も使用できます。（→P65）
(注2): 新品電池の満充電時における目安であり、使用環境や使用状況により異なります。

### ■セキュリティレベル選択機能（→P32）

●使用環境に合わせた5段階の車両サイレンレベルを、リモコンで選択ができます。

### ■スターターカット機能（専用ハーネス適合車種のみ）（→P54）

●セキュリティ作動中は、例え純正キーでもエンジンを掛けることができません。
※スターターカット機能は、SQ5000リモコン操作でのドアロック／アンロックに連動します。

### ■4センサー標準装備（→P26）

「微衝撃」、「高衝撃」、「電流」、「ドア」の4つの異なったセンサーが標準装備されていますので、車への犯行を敏感にキャッチすることができます。

### ■2段階ショックセンサー搭載（→P26・P38）

新設計の電磁誘導式センサーにより、誤作動を大幅に軽減しました。「微衝撃」、「高衝撃」センサーは、それぞれのボリュームにより、独立して感度の調整が可能です。

### ■120dB、6音色サイレン搭載

サイレンはコンパクトながら、大音量120dBを実現し、警報効果の高い6音色を搭載しました。

### ■LEDスキャナー機能搭載（OFF可）（→P44）

アンテナユニットに装備されたLEDにより、セキュリティ装備車であることを視覚的にアピールします。

### ■警報メモリー機能（→P23）

警報が鳴ったことを記憶し、セキュリティ解除時に作動確認音が変化して後から車に異常があったことを確認できます。

### ■パニックアラーム機能（→P36）

愛車付近で不審者を発見した場合など、リモコンで任意に撃退警報を鳴らすことができます。

### ■誤作動キャンセル機能

感度の調整不備などにより、注意警報・警告警報が連続して反応した場合には、内蔵のマイコンが判断し注意警報・警告警報を自動的にカットします。
※連続反応がなくなると注意警報、警告警報は自動復帰します。

### ■センサー&サイレン増設可能

オプションのセンサーやサイレンなどを組み合わせることで、セキュリティを一層システムアップすることができます。

### ■オンタイマー機能（→P58）

エンジン停止後に電動ファンやオートスタビライザーが作動する場合、誤作動するおそれのあるセンサーだけを一定時間カットします。

## 充実の先進機能

### ①エンジンスターター機能（専用ハーネス適合車種のみ）（→P24.P25）

優れた通信距離を実現したことにより、離れた場所からリモコンで車のエンジンをスタートできます。

### ②ドアロック連動機能（適合車種のみ）（→P22.P23）

リモコンでのセキュリティのON・OFFに連動して、車のドアロック・アンロックを制御することもできます。

### ③ターボタイマー機能（専用ハーネス適合車種のみ）（→P28）

ターボ車のエンジンをいたわるために、アフターアイドリングを行なうことができます。

### ④スペアリモコン対応（→P64）

オプションのリモコンを1台まで追加することができます。

# 内容物・各部の名称

ページ

リモコン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
リモコン充電スタンド・家庭用充電アダプター・車載用充電アダプタ・2段階ショックセンサー
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
アンテナユニット・6音色サイレン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
メインユニット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
ドアロックコード・ショックセンサー接続コード・ドア検出コード・オプションケーブル・リセットスイッチ・・・ 14
その他付属品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

# 内容物・各部の名称 ①

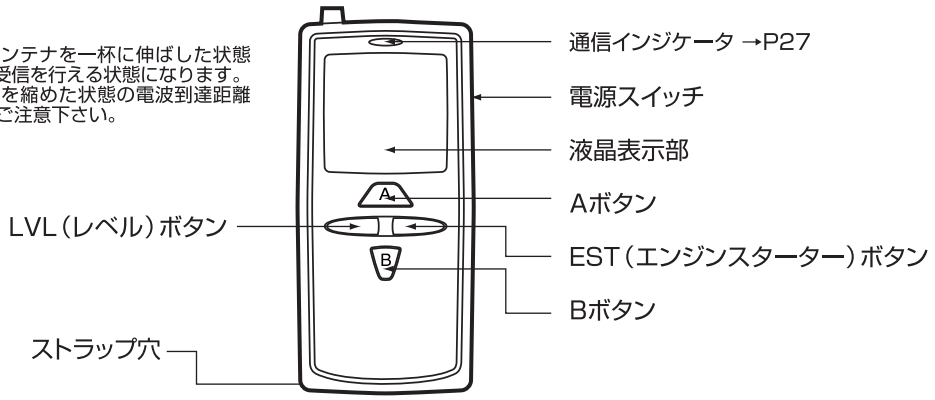


## リモコン （1ヶ）

セキュリティやエンジンスターター機能を操作する液晶表示付きの充電式リモコンです。
また、愛車の異常をリアルタイムで知ることができます。

**参考**

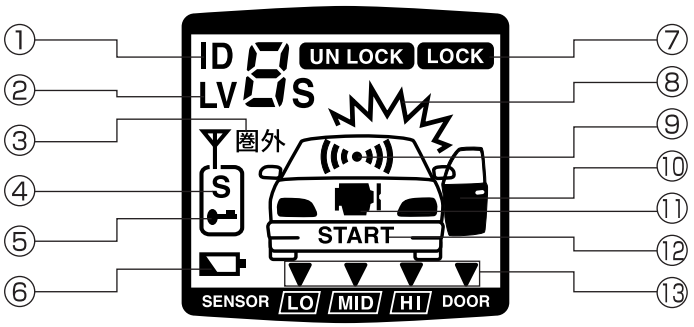
本品のリモコンはアンテナを一杯に伸ばした状態が最も良く電波の送受信を行える状態になります。このため、アンテナを縮めた状態の電波到達距離は短くなりますのでご注意下さい。




※開梱時、電池は入っていません。使用前に必ず電池を入れてください。（→P65）

## リモコン（液晶表示部）

セキュリティやエンジンスターターなどの状態をわかりやすく表示します。



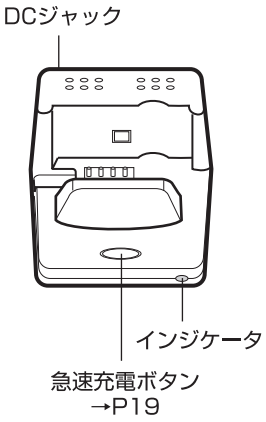

① ID ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ID書き込み時に表示されます。→P64
② セキュリティレベル表示 ・・現在のセキュリティレベルを表します。→P32
③ 圏外表示 ・・・・・・・・・・・・・リモコンが車両と通信できない場合に表示されます。
④ リモコンサイレント ・・・・・リモコンのブザー音を消す設定になっている場合に表示されます。→P30
⑤ キー操作ロック ・・・・・・・・リモコンのキー操作をロックしている場合に表示されます。→P31
⑥ 電池残量警告マーク ・・・・リモコンの電池残量が少なくなった場合に表示されます。→P18
⑦ ロック・アンロック表示 ・・・ドアロックの状態を表します。→P22、P23など
⑧ 異常マーク ・・・・・・・・・・・ ショックセンサー反応時など、車両に異常があったことを表します。→P26
⑨ 監視インジケータ ・・・・・・車両の監視を行なっていることを表します。→P22など
⑩ ドアマーク ・・・・・・・・・・・・車両のドアが不正開放されたことを表します。→P26
⑪ エンジンマーク ・・・・・・・・エンジンが始動していることを表します。→P24、P25
⑫ STARTマーク ・・・・・・・・ エンジンの始動を試みている時に表示されます。→P24
⑬ 車両警報レベル表示 ・・・・どのような異常があったのかを表します。→P26

# 内容物・各部の名称 ②

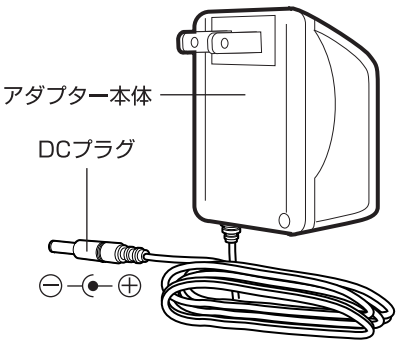
## リモコン充電スタンド・家庭用充電アダプター・車載用充電アダプター（各1ヶ）

リモコンの充電を行なう際に必要です。→P18～P20

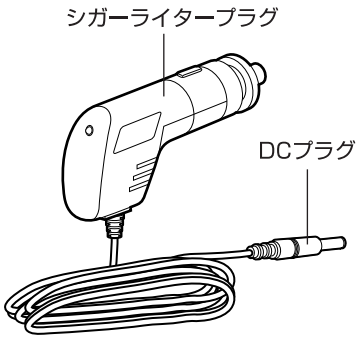
リモコン充電スタンド




家庭用充電アダプター（DC6V）

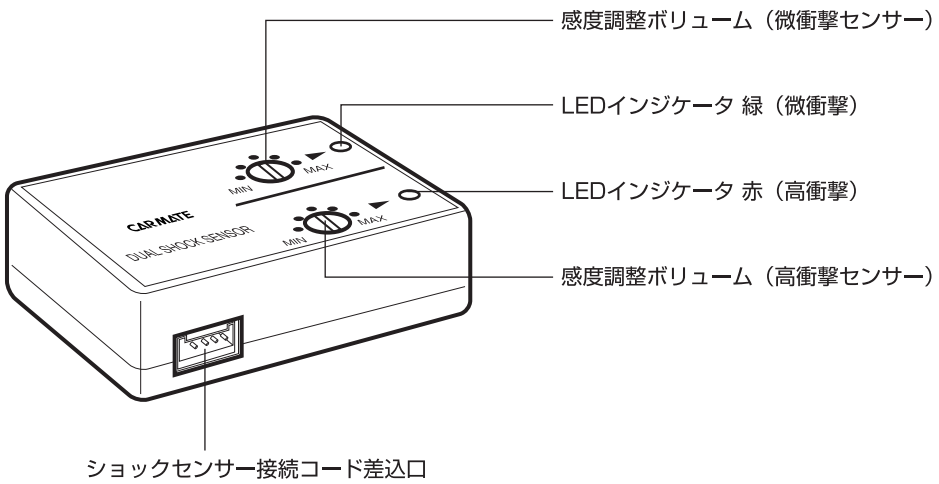



車載用充電アダプター




## 2段階ショックセンサー （1ヶ）

愛車に衝撃があったことを感知します。→P38

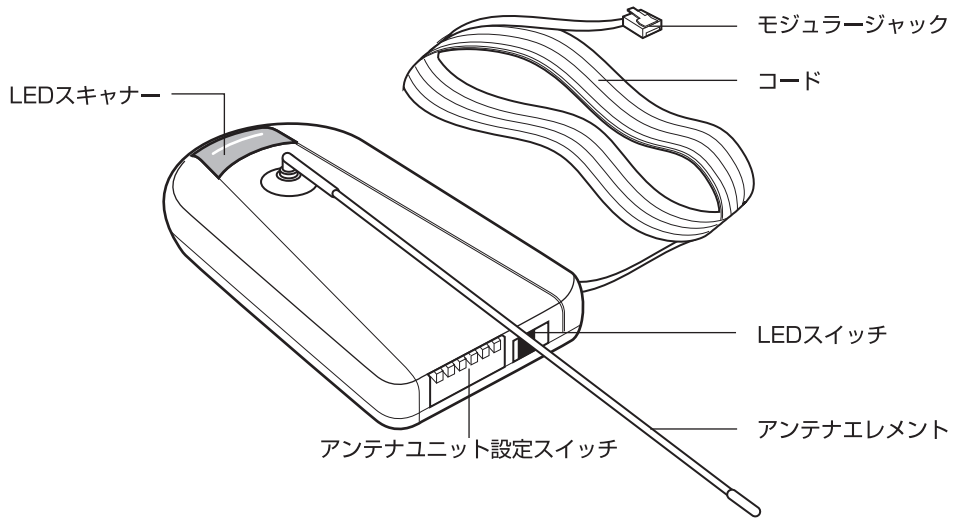


# 内容物・各部の名称 ③



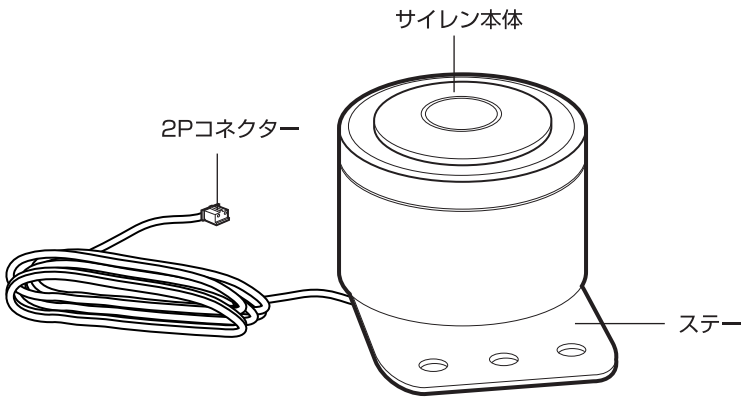
## アンテナユニット （1ヶ）

リモコンとの通信を行います。




## 6音色サイレン （1ヶ）

120dBの大音量で異常を知らせます。

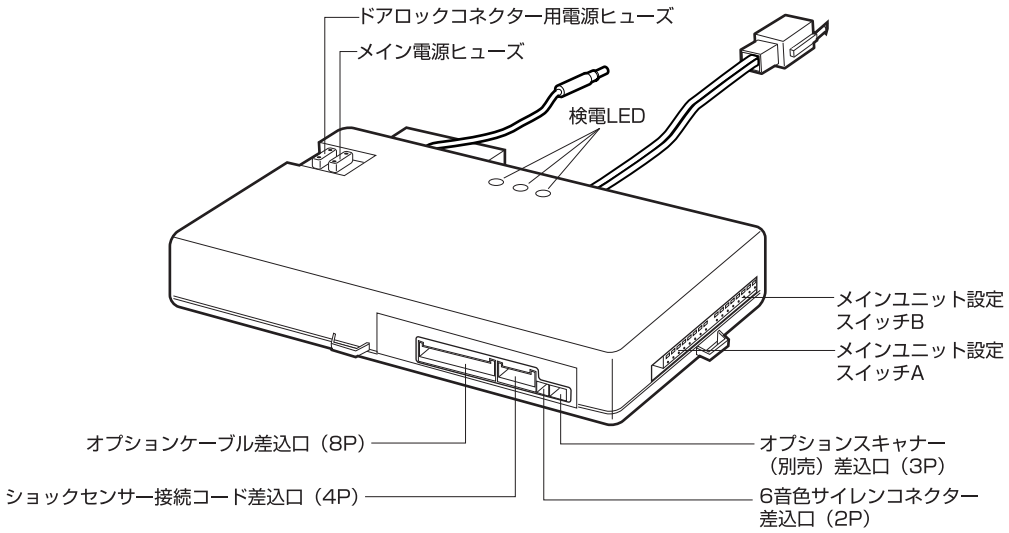


# 内容物・各部の名称 ④

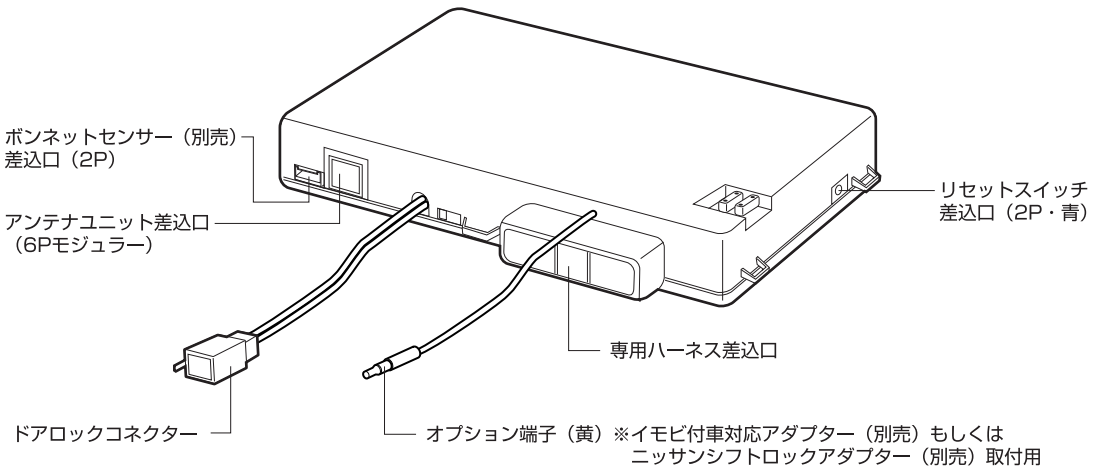
## メインユニット （1ヶ）

本製品の心臓部です。セキュリティやスターターなど様々なコントロールを行います。

▼ショックセンサーコード側




▼専用ハーネス側

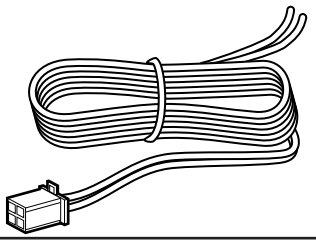


# 内容物・各部の名称 ⑤



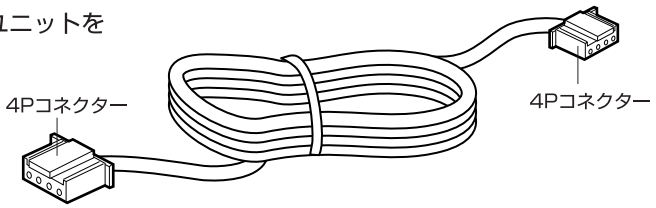
## ドアロックコード （1ヶ）

車両のドアロック・アンロックを
コントロールするための
コードです。



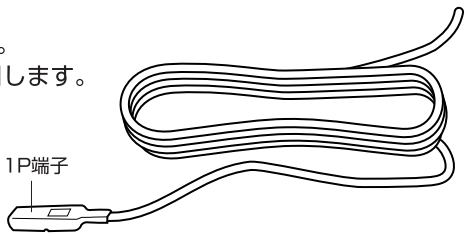
## ショックセンサー接続コード （1ヶ）

2段階ショックセンサーとメインユニットを
接続するためのコードです。



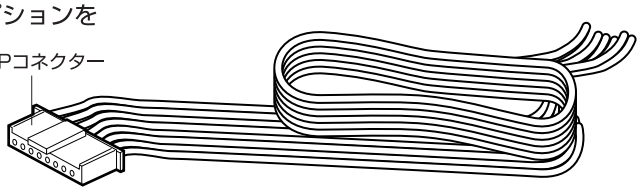

## ドア検出コード （1ヶ）

ドアの不正解放を検出するためのコードです。
ハーネスの13Pコネクターに差し込んで使用します。



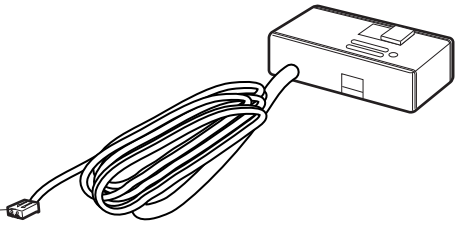

## オプションケーブル （1ヶ）

センサー・サイレンなどの別売オプションを
接続する際に使用します。




## リセットスイッチ （1ヶ）

メインユニットの電源スイッチです。
※リセットを行うと、セキュリティを強制的に
解除することができますが、同時にP/N検出
のデータも消失しますのでご注意ください。

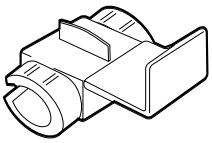


# 内容物・各部の名称 ⑥

## その他付属品

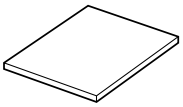
●ワンタッチコネクターA… 5ヶ

ドア検出コードなどの配線に使用します。



●両面テープ… 4枚

アンテナユニットや2段階ショックセンサーの取付けに使用します。



●危険シール… 1枚

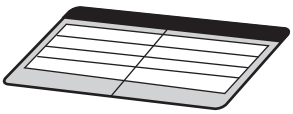
エンジンルーム内の目立つ場所に貼付けます。

●バッテリー交換時の注意… 1枚

車両バッテリー付近に貼付けます。

●かんたん操作ガイド… 1枚

手元に持っておくと便利です。



●防犯ステッカー… 1枚

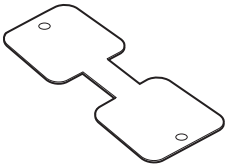
後部座席窓などに貼付けます。

●キーリング… 1ヶ

ストラップの金具部分に取付けます。

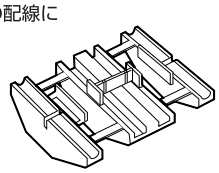
●アンテナステー… 1ヶ

アンテナユニットの取付けに使用します。



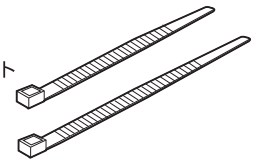
●ワンタッチコネクターB… 1ヶ

フットブレーキ検出コードの配線に使用します。



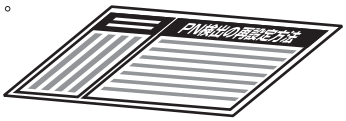
●結束バンド…小 5本
大 1本

配線の結束やメインユニットの固定などに使用します。



●モードシール… 1枚

運転席ドアを開けた時に見えるドアの付け根付近などに貼付けます。




●精密ドライバー… 1ヶ

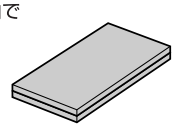
リモコンの電池ブタを外す際に使用します。
（ ⊕ 側）

●ストラップ… 1ヶ

リモコンのストラップ穴にヒモ部分を通して使用します。

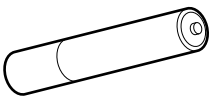
●マジックテープ… 1組

リモコン充電スタンドを車内で使用する際に使用します。



●専用充電池… 1本

リモコンに入れて使用します。



# 使いかたの基本

この項では、本品の基本的な使いかたについて解説しています。


ページ

リモコンの充電を行なう（家庭用充電アダプター）・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
リモコンの充電を行なう（車載用充電アダプター）・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
リモコンの電源スイッチを入れる ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
セキュリティをONにする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
セキュリティをOFFにする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
リモコンでエンジンをかける ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
リモコンでエンジンを止める ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
センサー反応時の動作について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

- 鳴っているサイレンを止めるには
- リモコン通報の「履歴表示」について
- 圏外時の通報について
- アイドリング中に働くセンサーについて
- 通信インジケーターについて

ターボタイマーを使用する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

# リモコンの充電を行なう（家庭用充電アダプター）

## 解 説

本品は、付属のリモコン充電スタンド（充電器）を使用してリモコンの充電を行うことができます。
リモコン液晶画面の「電池残量警告マーク」が点灯したら、すぐに充電を行ってください。

**⚠注意**

・ 本品のリモコン充電スタンドで充電可能な電池は、本品付属の専用充電池（または同仕様の専用充電池SQ107=別売）だけです。

専用充電池以外（充電可能と書かれているものも含めて）の電池を入れたリモコンを充電しようとしても、リモコンの誤充電防止回路が働くため充電できません。

・ 充電を行う際の推奨温度範囲は0℃～+40℃です。
・ 本品は、電池の残量に関わらず一定時間の充電を行う方式です。

【本品の充電時間】

| 通常充電モード | 急速充電モード（注） |
|---|---|
| 約 8時間 | 約 2.5時間 |

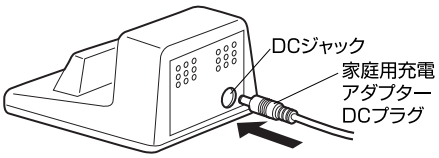
（注）急速充電を行なうと、電池寿命が短くなります。



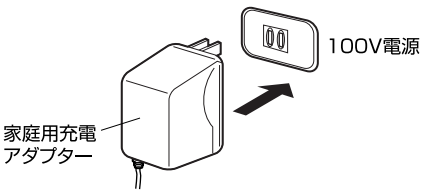
## 充電の手順（通常充電モード）

※通常はこのモードで充電を行なってください。

**1** リモコン充電スタンド背面のDCジャックに付属の家庭用充電アダプターのDCプラグを差し込みます。

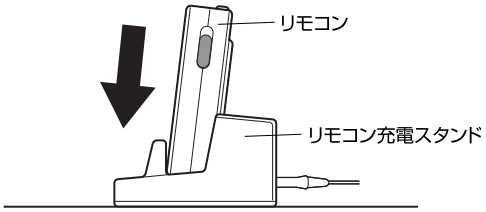



**2** 家庭用充電アダプターを家庭用100V電源に差し込みます。

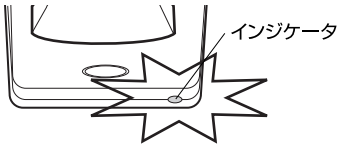



**3** リモコン充電スタンドを平らな場所に置き、リモコンを乗せます

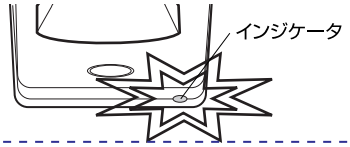
※この時、リモコンの電源スイッチの状態に関わらずリモコンは作動状態になります。




**4** リモコン充電スタンドのインジケータが点灯すれば充電開始です。



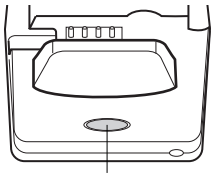

**5** 約8時間後に充電が完了し、リモコン充電スタンドのインジケータが点滅します（P19参照）。




**これでリモコンの充電が完了しました。**

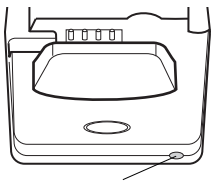
## 急速充電モードについて

本品のリモコン充電スタンドには、急速充電ボタンが付いており、このボタンを押すことで約2.5時間で充電完了となる「急速充電モード」になります。
但し、急速充電モードを使いすぎると電池への負担が増大し、電池寿命が短くなりますので、緊急時のみの使用をおすすめします。




## インジケータの見方

リモコン充電スタンドのインジケータで充電の状態を知ることができます。




| インジケータの表示 | 充電の状態 |
|---|---|
| 消　灯 | **リモコンがセットされていません。**<br>リモコンを乗せているにも関わらず消灯したままの場合は家庭用充電アダプターが正しく接続されていないか、リモコン充電スタンドの充電端子がリモコンに正しく触れていない恐れがありますので、正しくリモコンをセットし直してください。<br>または専用充電池以外の電池を使用している場合も、インジケータは点灯しません。専用充電池が入っているかどうか確認してください。 |
| 連続点灯<br>▬▬▬ | **通常の充電中です。** |
| 短い点滅<br>●　●　● | **正常に充電完了しました。** |
| 3回ずつの短い点滅<br>●●●　●●●　●●● | **充電エラーです。**<br>充電端子が汚れている場合は端子をやわらかい布などで拭いてください。<br>それでも充電エラーになる場合は、電池寿命または電池不良の可能性があります。新しい専用充電池に交換してください。 |
| 長い点滅<br>▬　▬　▬ | **急速充電中です。** |

**参考**　＜電池のマメ知識＞

- 充電池は消耗品です。充放電を繰り返すことで徐々に使用できる時間が短くなっていきます。本品の専用電池の場合、およそ1年毎に交換していただくことをおすすめします。
- 電池は使用場所の温度の影響を受け易い性質を持っています。例えば冬に寒い場所で使用した場合、暖かい場所に比べると「電池残量警告マーク」が早く点灯しやすい傾向になりますが、室内に入るなどして温度が上がると、点灯していたはずの「電池残量警告マーク」が消えてしまうこともあります。

## 関連事項

リモコンの電池交換について（→P65）

# リモコンの充電を行なう（車載用充電アダプター）

## 解説

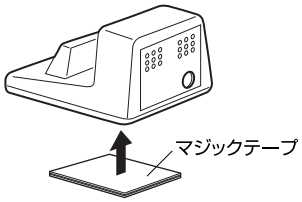
本品は車載用充電アダプターを使用することで、車内でのリモコン充電を行なう事ができます。
※注意事項など詳細は「リモコンの充電を行なう（家庭用充電アダプター）」（→P18・P19）を参照してください。

## 手順

1 リモコン充電スタンドを設置する場所を決めます。

**注意** 運転の妨げになる場所や、エアバッグの動作を妨げる場所への取付は危険ですので行なわないでください。

2 リモコン充電スタンドの裏面に付属のマジックテープ（表面の固い方）を貼り付けます。

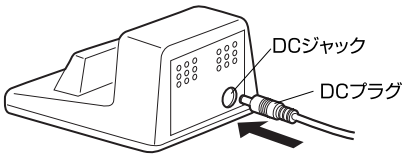



3 リモコン充電スタンドを設置する場所に、付属のマジックテープ（表面の柔らかい方）を貼り付けます。

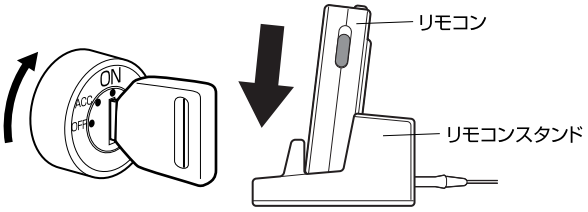
4 車載用充電アダプターのシガーライタープラグを車のシガーライターソケットに奥までしっかり差し込みます。

**注意** エンジンキーをOFFにしてから、シガーライターソケット内のゴミ・灰等をよく取り除いてください。
シガーライターソケット内が汚れていると接触不良の原因となります。

5 車載用充電アダプターのDCプラグを、リモコン充電スタンド背面のDCジャックに差し込みます。




6 車のエンジンを始動し、リモコンをリモコン充電スタンドに立てると充電が開始されます。




**注意**
- ●キーを抜いても車載用充電アダプターの電源ランプがついたままの車種は、バッテリーがあがる恐れがありますので車から離れる際はプラグを抜いてください。
- ●シガーライターソケットが収納式（灰皿内部等）になっている車種は、車載用充電アダプターを差し込んだままでは収納できなくなります。収納する場合は必ず車載用充電アダプターを抜いてください。
- ●車載用充電アダプターおよびリモコンを、高温になる場所に放置しないでください。熱により変形や内部機器が破損する恐れがあります。
- ●充電中に車載用充電アダプターが熱くなる場合がありますが、故障ではありません。

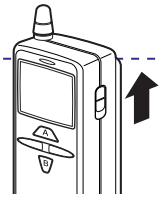
# リモコンの電源スイッチを入れる

## 解説

本品のリモコンには、電源スイッチが装備されています。使用時は必ずＯＮの状態でお使いください。
電源スイッチがＯＦＦの状態の場合、リモコン操作ができないばかりか、車両からの異常通報を
リアルタイムで受け取ることができません。（リモコン充電スタンドにセットしている場合は除きます。）

## 操作方法

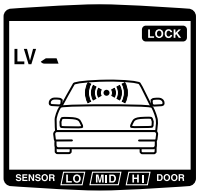
**1** リモコン右横の電源スイッチを上に
スライドさせます。



**2** リモコンから「ピッ」と音が鳴り、約１秒の間、
液晶が全て点灯します。

**3** 約５秒後に、現在の車両状態を表示します。

※車両状態を表示するまではボタンの操作は受けつけません。
※上記のように表示されない場合、リモコン充電池の容量不足である可能性
が考えられます。特に「ピッピッピッピッ・・・・」という音を繰り返し、
同時に液晶画面が点滅する状態になった場合や、表示が極端に暗かったり、
または表示が全くされない場合はすぐにリモコンの充電を行なってください。
リモコン充電スタンド（充電器）が手元にない場合は、とりあえず市販の単４
電池に交換することもできます（→P65）。




（※）表示内容は、状況により異なります。

### 参考

この時、正常に通信を行なう事ができないと 圏外 の表示が出たり、レベルの表示が出ない場合があります。
これには以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
●リモコンのアンテナを収納したまま操作したため、車両まで電波が届かなかった。
これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

### 参考

セキュリティＯＮの状態でリモコンの電源を一旦切り、再びＯＮにした場合は以下のような動作となりますが異常ではありません。
① セキュリティレベルが LV ▬ と表示されます。これは、本品の仕様上、車両側に設定されているセキュリティレベル（→P32）をリモコンで知ることができないためで、「セキュリティはONだが、セキュリティレベルの状態は分からない」ことを表します。）
② リモコンをONにした時点で、それまでの間にあった異常通報がアンサーバックされますが、この時は最も危険度の高い警報のみ通知されます。例えば、警報"LO"と"HI"の両方があった場合には"HI"のみ通知されます。
③ キー操作ロック（→P31）を設定してあった場合、リモコンの電源を一旦切るとキーロックは解除されます。

# セキュリティをONにする

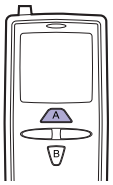
**注意** 衝撃センサーの感度調整などを行なっていない場合、不意に6音色サイレンが鳴る可能性があります。
必ず各種設定を行なった上でセキュリティをONにしてください。

## 操作方法

まず、車両の全てのドアが閉じられていることを確認します。

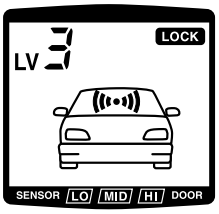


**1** リモコンの A ボタンを押します



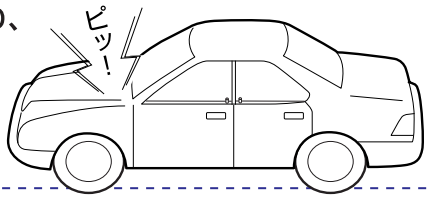

**2** リモコンの液晶画面に LV 3 と表示されます。

（※）セキュリティレベルの標準設定を変更（→P34）
している場合は、設定したレベルが表示されます。




**3** 同時に車両側の6音色サイレンが「ピッ」と鳴り、ドアがロックされます。

6音色サイレンは各種設定状況によっては鳴らない場合があります。
また、ドアロックは、ドアロック機能に対応した車種に対して
ドアロック配線を行なっている場合のみ作動します。




## これでセキュリティがONになりました。

**参考**

この時、正常に通信を行なう事ができないと 圏外 の表示が出たり、レベルの表示が出ない場合があります。
これには以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

- ●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
- ●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
- ●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
- ●リモコンのアンテナを収納したまま操作したため、車両まで電波が届かなかった。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

# セキュリティをOFFにする

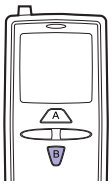
**注意** 以下の操作をしてセキュリティをOFFにすると、ドアロックも同時に解除されます（ドアロック対応車種にドアロック配線を行なった場合のみ）。
ドアロックを解除せずに、警報機能のみOFFにする場合は、P35「ドアロックしたままセキュリティのみ解除する」を参照の上、セキュリティのみを解除してください。

**参考** 本品にはドアの自動再ロック機能はありません。

## 作動方法

まず、車両の全てのドアが閉じられていることを確認します。

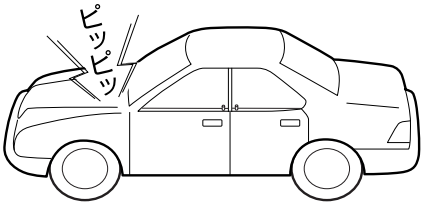
1. リモコンの B ボタンを押します。




2. リモコンの液晶画面に **UN LOCK** のみ表示されます。

3. 同時に車両側の6音色サイレンが「ピッピッ」と鳴り、ドアがアンロックされます。

（※）6音色サイレンは各種設定状況によっては鳴らない場合があります。また、セキュリティ作動中に警報があった場合は、車両側の6音色サイレンが「ピッピッピッピッ」と4回鳴って、警報があった事を知らせます（警報メモリー機能）。また、ドアのアンロックは、ドアロック機能に対応した車種に対してドアロック配線を行なっている場合のみ作動します。




## これでセキュリティがOFFになりました。

**参考**

この時、正常に通信を行なう事ができないと 圏外 の表示が出たり、説明通りの表示が出ない場合があります。
これには以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

- リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
- リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
- 車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
- リモコンのアンテナを収納したまま操作したため、車両まで電波が届かなかった。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

# リモコンでエンジンをかける

※純正キーレスエントリー装着車の場合、車両側の構造上、エンジンスターター作動中は純正キーレスエントリーの操作を受け付けない場合があります。（本品のドアロック機能は働きます。）

## この機能を使用する前に

必ずP5～P7の警告事項および注意事項をお読みになった上でご使用ください。

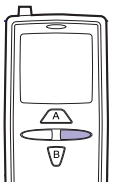
**⚠注意**

・本品を直接配線キットSQ110で取り付けている場合はこの機能は使用できません。
・以下の操作はセキュリティの状態がON・OFFいずれの場合からでも同じ手順で行うことができます。

## 操作方法

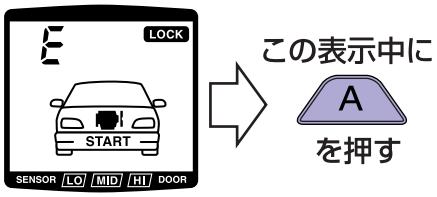
まず、車両の全てのドアが閉じられていることを確認します。

**1** リモコンの EST ボタンを押します



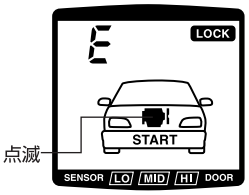

**2** 液晶表示が右図のように点滅している状態で、リモコンのAボタンを押します

（※）しばらく操作をしないで放置すると自動的に元の状態に戻ります。その場合は再度最初から操作してください。
（※）ドアロックの状態は、実際の状況を示しますので図と異なる場合があります。




**3** リモコンが「ピピッ」と鳴り、右図のような表示に変化します。尚、この段階では車両側はエンジンをかける動作をしている途中で、実際にエンジンがかかるまではこの表示が続きます。

（※）オプションのSQ152スモール・ハザードフラッシュリレーを取付けている場合、車両のハザードが1回（セキュリティOFF時は2回）点滅します。
（※）ドアロックの状態は、実際の状況を示しますので図と異なる場合があります。




**4** 実際にエンジンがかかると、しばらくしてリモコンの表示が右図のように変化します。

（※）ドアロック状態およびセキュリティレベルの表示は、実際の状況を示しますので図と異なる場合があります。

## これで車両のエンジンが正常にスタートしました。

正常に操作できているにもかかわらず、エンジンが始動しない場合は、68ページの「エンジンスターター機能が作動しない場合」を参照ねがいます。

**参考**

この時、正常に通信を行なう事ができないと 圏外 の表示が出たり、 説明通りの表示が出ない場合があります。
これには以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
●リモコンのアンテナを収納したまま操作したため、車両まで電波が届かなかった。
これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

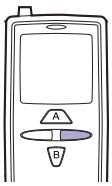
# リモコンでエンジンを止める

**参考**

・本品を直接配線キットで取り付けている場合はこの機能は使用できません。
・以下の操作はセキュリティの状態がON・OFFいずれの場合からでも同じ手順で行うことができます。
・本操作でエンジンを停止できるのは、本品のエンジンスターター機能によってエンジンを掛けた場合と、ターボタイマー機能によりアフターアイドリングを行なっている場合だけです。
・キーシリンダーにキーを差して「イグニッションON」（通常走行の位置）に回している場合は本操作でエンジンを止めることはできません。

## 操作方法

**1** リモコンの EST ボタンを押します




**2** 液晶表示が右図のようになっている状態で、リモコンのBボタンを押します

（※）しばらく操作をしないで放置すると自動的に最初の状態に戻ります。その場合は再度最初から操作してください。

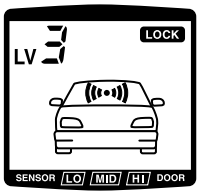
この表示中に B を押す

（※）ドアロックの状態は、実際の状況を示しますので図と異なる場合があります。

**3** リモコンが「プッ」と鳴り、右図のような表示に変化します。

（※）ドアロックの状態は、実際の状況を示しますので図と異なる場合があります。

**4** 実際にエンジンが止まると、リモコンの表示が現在の状態に変化します。




（※）ドアロック状態およびセキュリティレベルの表示は、実際の状況を示しますので図と異なる場合があります。

## これで車両のエンジンが正常に停止しました。

**参考**

この時、正常に通信を行なう事ができないと 圏外 の表示が出たり、説明通りの表示が出ない場合があります。
これには以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングで車載機も電波を送信しようとしていた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
●リモコンのアンテナを収納したまま操作したため、車両まで電波が届かなかった。
これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

# センサー反応時の動作について

## 解説

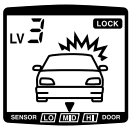
本品には、センサーの反応に応じた様々な警報パターンがあります。
本品を最大限に活用していただくために、本項の内容をお読みになった上でご使用ください。

このページに記載されている動作は、**各種設定が工場出荷状態のままの場合**です。
設定の内容が異なる場合は以下の動作内容と異なる場合がありますので、詳しくはそれぞれの設定に関するページをご参照ください。尚、各種設定とは、以下の内容を指します。

- ●セキュリティレベルがLV3であること（→P32）
- ●リモコンのブザー音が鳴る状態であること（→P30）
- ●標準ショックセンサーの警報レベルが「L」になっていること（→P41）
- ●注意・警告音カットが「カットしない」になっていること（→P43）
- ●撃退警報時間が「30秒」になっていること（→P57）
- ●オンタイマー機能の作動中でないこと（→P58）
- ●LEDスキャナー機能がONになっていること（→P44）
- ●エンジンスターターおよびターボタイマーによるアイドリングが行なわれていないこと



## センサー反応時の動作

| | | 6音色サイレンの鳴り方 | リモコンの反応 |
|---|---|---|---|
| 標準装備のセンサー | ① 微衝撃センサー反応時 | 「注意」<br>（ピュ　ピュ） | "LO" |
| | ② 高衝撃センサー反応時 | 「警告」<br>（約１秒間のサイレン音） | "MID"  |
| | ③ 電流センサー反応時<br>（電流センサーON時のみ） | 「撃退」<br>（約30秒間のサイレン音）<br>6音色の連続切り替え | "HI" |
| | ④ ドアセンサー反応時<br>（ドア検出コード接続時のみ） | | "DOOR" |
| オプションセンサー（別売） | ⑤ オプションケーブルの<br>「注意入力コード」（青色）<br>に接続したセンサーが反応した場合 | 「注意」<br>（ピュ　ピュ） | "LO" |
| | ⑥ オプションケーブルの<br>「警告入力コード」（茶色）<br>に接続したセンサーが反応した場合 | 「警告」<br>（約１秒間のサイレン音） | "MID" |
| | ⑦ オプションケーブルの<br>「撃退入力コード」（緑色）<br>に接続したセンサーが反応した場合 | 「撃退」<br>（約30秒間のサイレン音）<br>6音色の連続切り替え | "HI" |

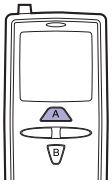
※アンテナユニットのLEDスキャナーも、センサー反応時に点滅します。

## 鳴っているサイレンを止めるには

### ●車両側サイレンを途中で止める場合

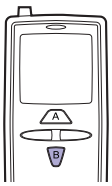
① リモコンの A ボタンを押します。

※セキュリティがONになった状態でサイレンは停止します。
（ドアロックコードを接続している場合は同時にドアがロックされます。）




② または、リモコンの B ボタンを押します。

※セキュリティがOFFになった状態でサイレンは停止します。
（ドアロックコードを接続している場合はセキュリティだけでなく
ドアロックも解除されます。）




### ●リモコンの通報音を途中で止める場合

上記 ① - ② のいずれか操作を行なうことでリモコンの通報音も止まります。
また、LVL EST のいずれかのキーを押した場合はリモコンの通報音だけ止めることができます。

## リモコン通報の「履歴表示」について

リモコンへ通報が行なわれた後、セキュリティONまたはOFFの操作を行なうまでの間は、 リモコンの液晶画面に通報された警報レベルは「履歴表示」として残ります。
また、履歴表示中にリモコン操作を行なった場合、履歴表示を見逃してしまうことを防ぐため、最初のリモコン操作を行なった時に「ピピピ」と音が鳴り、赤色バックライトが点灯するようになっています。このような場合は、再度操作を行なっていただくことで正常に動作します。

## 圏外時の通報について

万一、圏外時にセンサーの反応があった場合は、通信可能な状態になった時、自動的にリモコンに履歴表示が行なわれます。この場合、リモコンの通報音は鳴りませんのでご注意ください。
また、圏外時に複数のセンサーが反応していた時は一番危険度の高い履歴（DOOR>HI>MID>LOの順）が1つだけ表示されます。

## アイドリング中に働くセンサーについて （エンジンスターター機能およびターボタイマー機能使用時）

エンジンスターター機能およびターボタイマー機能によるアイドリングを行なっている時に反応するセンサーは次の通りです。

・ドアセンサー
・撃退入力コードに接続したオプション
（アイドリング中の撃退線検出がONになっている場合のみ→P59）

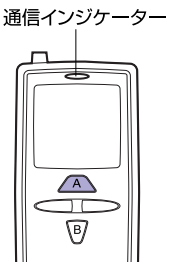
これら以外のセンサーは誤作動を防ぐために反応しませんのでご注意ください。

## 通信インジケーターについて

リモコンの電源ON時、通信インジケーターは以下のように光ります。
夜間など、暗い場所での状態確認にお役立てください。

| | |
|---|---|
| 緑の点滅 | 通常待機中 |
| 点滅しない | 通常待機中（圏外表示がある場合） |
| 赤の点滅（1回） | 異常履歴"LO"表示中 |
| 赤の点滅（2回） | 異常履歴"MID"表示中 |
| 赤の点滅（3回） | 異常履歴"HI"または"DOOR"表示中 |

赤の点滅は、AまたはBボタンを押した時点で緑の点滅に戻ります。



# ターボタイマーを使用する

本品には、アフターアイドリングが必要なターボ車のために「ターボタイマー機能」が装備されています。ターボタイマー機能を使用すると、キーをOFFにしてエンジンを止めた後、設定した時間に応じたアフターアイドリングが行なえます。

**⚠警告**
・ターボタイマー機能を使用する際は、必ずシフトレバーが「P」の位置でキーを抜いてください。また、カウントダウン中にキーを抜いたままシフトレバーを動かすことができる一部の車両は、カウントダウン中に絶対シフトレバーを動かさないでください。事故の原因になります。

**⚠注意**
・本品を直接配線キットで取り付けている場合はターボタイマー機能は使用できません。
・ターボタイマーを使用するには本体の設定が必要です（→P40・P52）設定が行われていない場合は本機能は作動しませんのでご注意ください。

## 操作方法



1. エンジンが始動している状態（通常の走行状態）から、イグニッションキーをOFFにします。
2. 自動的にターボタイマーのカウントダウンが始まります。
3. 設定した時間（→P52）が経過すると、自動的にエンジンが停止します。

カウントダウン途中でエンジンを停止したい場合は、リモコンからエンジンを止める操作（→P25）を行なう他に、安全機能を利用する方法があります。

▼安全機能を利用してターボタイマーをカウントダウン途中で止める方法

| | |
|---|---|
| P/N検出を行なっている場合 | ターボタイマー作動開始から約3秒以上経過したあと、フットブレーキを踏みながら、シフトレバーを「P」（または「N」）から「R」などに動かすとエンジンは止まります。 |
| フットブレーキ検出を行なっている場合 | ターボタイマー作動開始から約3秒以上経過したあと、車両のフットブレーキを踏むとエンジンは止まります。 |

※サイドブレーキ検出を行なっている場合はサイドブレーキを掛けなければターボタイマーは作動しません。

**参考**

ターボタイマー機能は、NA車などターボタイマーが必要ない車両にも設定することができますが、その場合無駄なアイドリングを行う事となり、排気ガスが環境に悪影響を及す原因となるばかりか、騒音の発生やアイドリング時の燃料消費による燃費の悪化を招くため、特にアフターアイドリングの必要がない車種の場合は設定しないようにお願いします。

- ●純正キーレスエントリー装着車の場合、車両側の構造上、ターボタイマー作動中は純正キーレスエントリーの操作を受け付けない場合があります（本品のドアロック機能は働きます）。
- ●ガソリンスタンド利用時など、ターボタイマーを途中で止めたい場合は、リモコンからエンジンを停止させる操作をするか、安全機能（P/N検出もしくはフットブレーキ検出）を利用してエンジンを止めます。

# 応用操作

この項では、本品をより便利に使いこなすためのさまざまな操作方法を解説しています。


ページ

リモコンのブザー音を鳴らさないようにする …… 30
リモコンのボタンをロックして誤操作を防ぐ …… 31
セキュリティレベルを切り替える …… 32
セキュリティレベルの標準設定を変更する …… 34
ドアロックしたままセキュリティのみを解除する …… 35
パニックアラームを鳴らす …… 36

# リモコンのブザー音を鳴らさないようにする

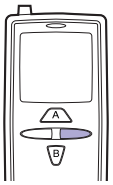
## （リモコンサイレント機能）

### 解説

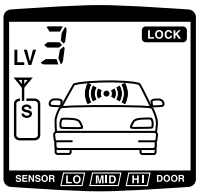
本品は、リモコンの操作音および通報音を鳴らさないように設定することができます。不意に音が鳴ると困る場所で使用する際に活用してください。尚、この設定を行なうと、操作音だけでなく異常通報音も鳴らなくなりますのでご注意ください。

### 設定方法

1. リモコンの EST ボタンを3秒以上押します。




2. リモコンの液晶画面に S が表示されます。

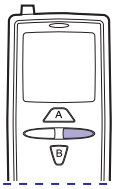



（※）表示内容は、状況により異なります。

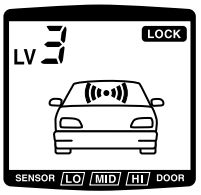
**これでリモコンのブザー音が鳴らなくなりました。**

### 解除方法

1. 設定時と同様にリモコンの EST ボタンを3秒以上押します。




2. リモコンの液晶画面から S が消えます。




（※）表示内容は、状況により異なります。

**これでリモコンのブザー音が鳴るようになりました。**

# リモコンのボタンをロックして誤操作を防ぐ

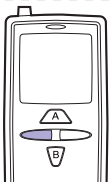
## （キー操作ロック機能）

### 解説

本品は、リモコンのボタンをロックして不意の誤操作を防止することができます。
特に、気付かないうちにセキュリティが解除されてしまうことが防止できます。

### 設定方法

1. リモコンの LVL ボタンを3秒以上押します。



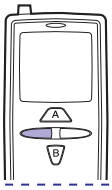

2. リモコンの液晶画面に が表示されます。

（※）表示内容は、状況により異なります。

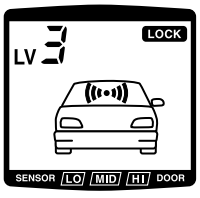
**これでリモコンのボタンがロックされました。**

### 解除方法

1. 設定時と同様にリモコンの LVL ボタンを3秒以上押します。




2. リモコンの液晶画面から が消えます。




（※）表示内容は、状況により異なります。

**これでボタンのロックが解除されました。**

（※）リモコンの電源スイッチを一旦OFFにして再びONにした場合も解除されるようになっています。

# セキュリティレベルを切り替える

## 活用例

本品は、セキュリティレベルを切り替えることで使用環境に合わせた使い方ができます。

## 解 説

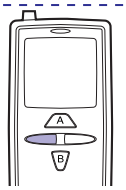
●全ての警報を活かしたい場合・・・**レベル3でご使用ください。**
●交通量の多い場所や、電車などによる振動が強く、微衝撃センサーを働かせたくない場合
**・・・レベル2がおすすめです。**
●立体駐車場など、衝撃センサーをカットして、ドアの不正開放のみに対して反応させる場合
**・・・レベル1がおすすめです。**
●車両側の6音色サイレンやリモコンへのアンサーバックは一切働かせず、スターターカット機能のみ活用する場合 **・・・レベル0でご使用ください。**
●車両側の6音色サイレンは一切鳴らさずに、リモコンへのアンサーバックのみ使用したい場合
**・・・サイレントモードでご使用ください。**

## 操作方法

まず、車両の全てのドアが閉じられていることを確認します。
（※）この時、セキュリティの状態がOFF・ONいずれの場合でも以下の操作は同じ手順で行うことができます。

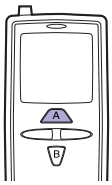


**❶** 目的のレベルになるまでリモコンの LVL ボタンを押します。



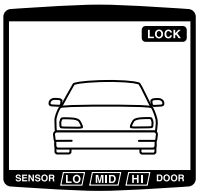

**❷** 目的のレベルが表示されている状態で、リモコンの A ボタンを押します。

（※）しばらく操作をしないで放置すると自動的に最初の状態に戻ります。

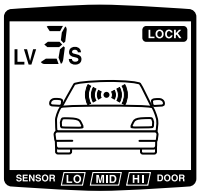



**❸** 車両側の6音色サイレンが「ピッ」と鳴り、ドアがロックされます。

●6音色サイレンは各種設定状況によっては鳴らない場合があります。また、ドアロックは、ドアロック機能に対応した車種に対してドアロック配線を行なっている場合のみ作動します。
●サイレントモードでセキュリティをONした場合は車両側サイレンは鳴りません。




例）セキュリティレベル0に設定した場合（リモコンへの通報はありませんので、ドアロック状態のみ表示します。）




例）セキュリティレベル3S（サイレントモード）に設定した場合

## これで目的のレベルでセキュリティがONになりました。

**参考**

この時、正常に通信を行なう事ができないと 圏外 の表示が出たり、説明通りの表示が出ない場合があります。
これには以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
●リモコンのアンテナを収納したまま操作したため、車両まで電波が届かなかった。
これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

# セキュリティをONした時に働く機能の一覧

| セキュリティレベル | | レベル3（工場出荷時） | レベル2 | レベル1 | レベル0 | サイレントモード |
|---|---|---|---|---|---|---|
| リモコン表示 | | LV 3 | LV 2 | LV 1 | LOCKのみ表示されます | LV 3S |
| 標準装備のセンサー | 微衝撃センサー | ○ | ×（※1） | × | × | 車両側の6音色サイレンは鳴らさず、リモコンへの通報のみ行います。（※4） |
| | 高衝撃センサー | ○ | ○ | ×（※1） | × | |
| | 電流センサー（※2） | ○ | ○ | ○ | × | |
| | ドアセンサー（※3） | ○ | ○ | ○ | × | |
| オプションケーブルに接続したセンサー | 注意入力コード | ○ | × | × | × | |
| | 警告入力コード | ○ | ○ | × | × | |
| | 撃退入力コード | ○ | ○ | ○ | × | |
| スターターカット機能（→P54） | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

（※1）・・・アンテナユニットの設定スイッチNo.4（標準ショックセンサー警報レベル）を「H」(ON側)にした場合には反応します。（→P41）

（※2）・・・メインユニットの設定スイッチB（右側）No.2（電流センサー）が「使用する」（ON側）の場合のみ反応します。ドアセンサーの配線を行なった場合など、電流センサーを「使用しない」（OFF側）に設定した場合は、電流センサーは反応しません。（→P55）

（※3）・・・ドア検出コードを配線した場合のみ反応します。

（※4）・・・メインユニットの設定スイッチB（右側）No.8（サイレントモード動作中のデータ出力コード（橙）に対する撃退出力の有無）が「出力する」（ON側）の場合は、次のセンサーが反応した時のみ、オプションケーブルの「データ出力コード（橙）」へ出力を行ないます。

・電流センサー
・ドアセンサー
・撃退入力コードに接続したセンサー
・高衝撃センサー（アンテナユニットの設定スイッチNo.4がONの場合）

また、別売のPHS通報探索ユニットを接続して、電話通報の機能を使用する場合は、この メインユニットの設定スイッチB（右側）No.8（サイレントモード動作中のデータ出力コード（橙）に対する撃退出力の有無）が「出力する」（ON側）になっていないとサイレントモード（Lv3S）設定時に電話への通報を行なえませんのでご注意ください。（→P60）

# セキュリティレベルの標準設定を変更する

## 解説

リモコンの A ボタンでセキュリティをONにする場合、通常（工場出荷時）は「レベル3」（LV 3）でONになりますが、以下の設定を行なうと、A ボタンでセキュリティをONする際のセキュリティレベルが任意に変更できます。

## 活用例

普段セキュリティを使用する駐車場所の環境によって、セキュリティレベルの標準設定を切り替えておくと便利です。

●住宅密集地など6音色サイレンを鳴らせない場所に駐車するため、6音色サイレンは鳴らさずにリモコンへの通報のみを行いたい場合。
→サイレントモード（LV 3S）に設定しておく

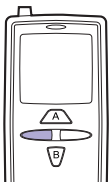
●振動が多い場所に駐車するため、衝撃センサーを反応させずにドアセンサーの監視のみを行ないたい場合。
→レベル1（LV 1）に設定しておく

●センサー類は一切働かせず、乗り逃げ防止のスターターカット機能のみを作動させておきたい場合。
→レベル0（LV 0）に設定しておく



## 設定方法

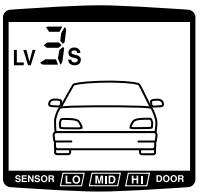
1 目的のレベルになるまでリモコンの LVL ボタンを押します。



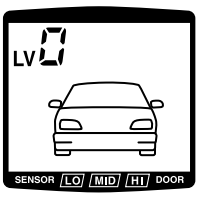
2 目的のレベルが表示されている状態で、リモコンの EST ボタンを押します。

（※）しばらく操作をしないで放置すると自動的に最初の状態に戻ります。

・設定が完了すると、しばらくして元の表示画面に戻ります。




例）セキュリティレベル3S（サイレントモード）に設定した場合




例）セキュリティレベル0に設定した場合

## これで目的のレベルが A ボタンに設定されました。

**参考**

以上の設定を行なっただけでは、車両側のセキュリティレベルは変更されていません。
実際に車両側のセキュリティレベルを変更するには、A ボタンを押して、セキュリティONの操作を行なって下さい。

# ドアロックしたままセキュリティのみ解除する

## 解説

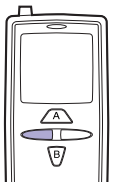
本品は、車両をドアロックしたままスターターカット機能以外のセキュリティ機能を解除することができます。
この操作を行うと、簡単にセキュリティレベル0（→P32）の時と同じ状態にすることができます。

### 参考

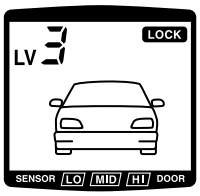
・この操作を行なうと、車両がドアロックされていなかった場合は自動的にドアロックされます。
（ドアロック機能に対応した車種に対してドアロック配線を行なっている場合のみ）
・ この操作を行なうと、車両側のサイレンやオプション類は通常のセキュリティON時と同様の反応をした上で全てのセンサーがOFFの状態になります。これは、セキュリティが解除されたことを周囲に知られてしまう危険性を防ぎ、あたかもセキュリティが働いているかのように見せるためで、異常ではありません。
・この操作でセキュリティをOFFにした場合、スターターカット機能は解除されません。
（スターターカット機能の設定（→P54）が「使用する」になっている場合のみ）
・LEDスキャナー（オプションを含む）による威嚇は継続して行ないます。

## 操作方法

1 リモコンの LVL ボタンを押します。

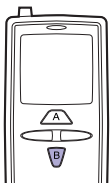



2 リモコンの液晶画面が右図のように点滅します。

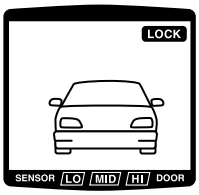



（※）表示内容は、状況により異なります。

3 LV 3 の表示が点滅しているうちに
リモコンの B ボタンを押します。




4 しばらくLV 0 の表示が点滅したあと、
車両側の6音色サイレンが「ピュッ」と鳴り、リモコンの
液晶画面が右図のようになります。




**これでセキュリティのみが解除されました。**

# パニックアラームを鳴らす

## 解説

本品は、リモコンの操作により強制的に30秒間6音色サイレンを鳴らすことができます。周囲に危険を知らせたい場合の「パニックアラーム」として使用してください。
この機能はセキュリティのON/OFFや駐車中/走行中などの区別なく使用できます。

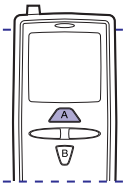
**⚠警告** 本品の6音色サイレンは120dBの大音量を発するため、人やペット・動物などの至近距離で作動させると聴覚障害の原因となる危険性があります。絶対にイタズラなどの目的では使用しないでください。

## 活用例

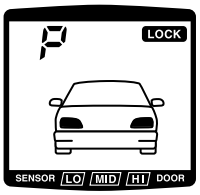
・愛車の周囲で明らかに不審な行動をしている人を発見した場合
・カージャックなどによる身の危険を周囲に知らせる必要があるとき

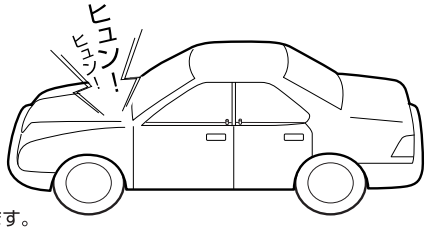
## 操作方法

❶ リモコンの A ボタンを3秒以上押します。




❷ リモコンの液晶画面が右図の点滅表示になり、車両の6音色サイレンが鳴ります。



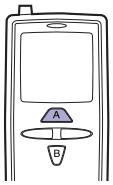




（※）表示内容は、状況により異なります。

※誤ってパニックアラームを鳴らしてしまった場合は、落ち着いて以下のいずれかの操作を行なってください。パニックアラームの途中で6音色サイレンを止めることができます。

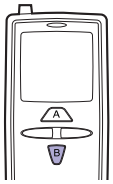
① リモコンの A ボタンを押します。

※セキュリティがONになった状態で6音色サイレンは停止します。
（ドアロックコードを接続している場合は同時にドアがロックされます。）




② または、リモコンの B ボタンを押します。

※セキュリティがOFFになった状態で6音色サイレンは停止します。
（ドアロックコードを接続している場合はセキュリティだけでなくドアロックも解除されます。）




**参考**
パニックアラーム操作を行なった場合、電波送信の瞬間に圏外状態になっていて車両との通信ができなくても上記の通りに表示され、その際は車両側の6音色サイレンが鳴らないのでご注意ください。

# 基本的な本体設定

この項では、使用状況に合わせて簡単に設定できる便利な機能を解説しています。
この項で行なう設定のほとんどはアンテナユニットのスイッチを使用して行ないます。


2段階ショックセンサーの感度を調整する ・・・・・・・・ 38
エンジンスターターのセルモーター回転時間を設定する ・・・・・・・・ 39
ターボタイマーを使用するかどうか選択する ・・・・・・・・ 40
2段階ショックセンサーが反応した時の警報レベルを変更する ・・・・・・ 41
サイレンを鳴らさずセキュリティをON/OFFする ・・・・・・・・ 42
「注意」および「警告」のサイレンを鳴らさないようにする ・・・・・・・・ 43
LEDスキャナー機能のON/OFFを設定する ・・・・・・・・ 44

# 2段階ショックセンサーの感度を調整する

## 解説

本品の2段階ショックセンサーには、衝撃の強さに応じた2つのセンサー回路が内蔵されています。

【2段階ショックセンサー反応の目安】

| | |
|---|---|
| 微衝撃センサー | 弱い衝撃に対して反応するセンサー（こぶしで軽く車体を叩く程度の衝撃） |
| 高衝撃センサー | 強い衝撃に対して反応するセンサー（こぶしに力を込めて強く車体を叩くような衝撃） |

**参考**

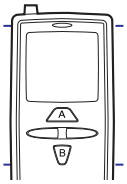
車両のボディサイズ・車体剛性・取り付け位置・衝撃を与える場所などによって衝撃センサーの感度は大きく影響されます。また、感度を強めに設定した場合は、改造車のマフラー音やトラックなどの走行時の強い揺れを衝撃と判断して反応してしまう場合がありますのでご注意ください。

## 操作方法

**感度調整を行う場合の注意**

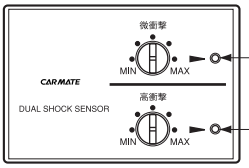
- 衝撃を与える間隔は3.5秒以上空けてください。2段階ショックセンサーに連続して衝撃を加えても本体は3.5秒置きにしか反応しません。
- 車体を叩く際は、ボディのへこみやガラスの破損などに充分注意して行なってください。万一車体などが損傷した場合の責任は負いかねます。
- 感度調整ボリュームは精密部品です。回しすぎるとボリュームが破損し、感度の調整ができなくなりますのでご注意ください。
- 感度の設定を強くしすぎると誤作動の原因となりますのでご注意ください。

### ① リモコンでセキュリティをOFFにします。



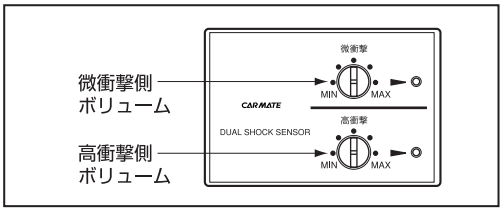

### ② 車体に衝撃を加え、2段階ショックセンサーのLEDが点灯するかどうか確認します。

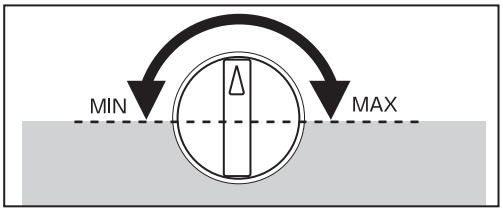
（2段階ショックセンサーをLEDの点灯が確認できない位置に取り付けた場合はセキュリティをLv3でONにした状態でサイレン音を参考にして感度調整を行なってください。）




### ③ 希望する感度になるように、感度調整ボリュームを手でゆっくりと回して調整していきます。

（感度調整ボリュームは精密部品です。回しすぎるとボリュームが破損する原因となりますので、感度調整は慎重に行なってください。）




調整可能範囲は約180°です。調整可能範囲を超えて回さないでください。

# エンジンスターターの
# セルモーター回転時間を設定する

## 解 説

本品は、エンジンスターター作動時のセルモーターの回転時間を2段階で切り替えることができます。

▼セル回転時間について

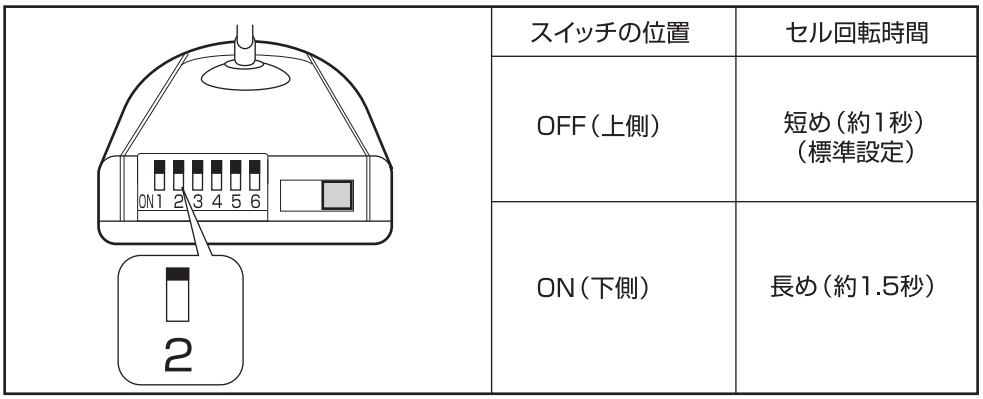
| | |
|---|---|
| 短め<br>（約1秒） | 通常はこちらの位置で使用してください。<br>（工場出荷時設定） |
| 長め<br>（約1.5秒） | 通常のセルモーター回転時間ではエンジンが始動できない場合はこちらに切り替えて使用してください。特に冬期（寒冷時）はエンジンの掛かりが悪くなる傾向があるので、冬期のみこちらに切り替える必要がある場合もあります。 |

### 参考

- 本品は、一度目の始動動作でエンジンが掛からなかった場合、リトライ機能が働き、最初の始動と合わせて合計3回のエンジン始動を試みます。またその際は、一回の始動毎にセルモーターの回転時間が0.5秒づつ長くなる仕様となっています（最長時で約2.5秒となります）。
- 短めの設定で正常に始動する車両に対して「長め」の設定を行なうと、エンジンが掛かった後もセルモーターが回ることになり、その時セルモーターから「カリカリ‥」と異音が発生する原因となります。
- 純正イモビライザー装着車は、車両構造上セルモーターを長めに回す必要があります。純正イモビライザー装着車でエンジン始動が行なわれない場合は「長め」の設定をお試しください。

## 設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.2「セル回転時間」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | セル回転時間 |
|---|---|
| OFF（上側） | 短め（約1秒）<br>（標準設定） |
| ON（下側） | 長め（約1.5秒） |

# ターボタイマーを使用するかどうか選択する

## 解説

本品には、アフターアイドリングが必要なターボ車のために「ターボタイマー機能」が装備されています。
ターボタイマー機能を使用すると、キーをOFFにしてエンジンを止めた後、設定した時間に応じたアフターアイドリングが行なえます。

### ⚠警告

・ターボタイマー機能を使用する際は、必ずシフトレバーが「P」の位置でキーを抜いてください。また、カウントダウン中にキーを抜いたままシフトレバーを動かすことができる一部の車両は、カウントダウン中に絶対シフトレバーを動かさないでください。事故の原因になります。

### 参考

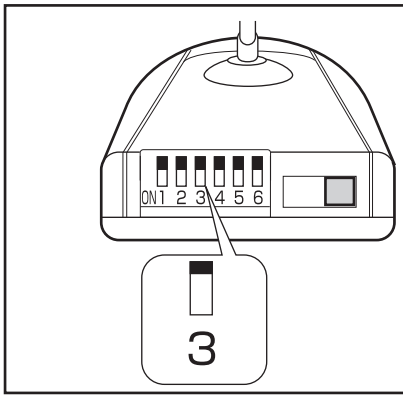
・ターボタイマー機能は、NA車などターボタイマーが必要ない車両にも設定することができますが、その場合無駄なアイドリングを行う事となり、排気ガスが環境に悪影響を及す原因となるばかりか、騒音の発生やアイドリング時の燃料消費による燃費の悪化を招くため、特にアフターアイドリングの必要がない車種の場合は設定しないようにお願いします。
・純正キーレスエントリー装着車の場合、車両側の構造上、ターボタイマー作動中は純正キーレスエントリーの操作を受け付けない場合があります（本品のドアロック機能は働きます）。
・ガソリンスタンド利用時など、ターボタイマーを途中で止めたい場合は、リモコンからエンジンを停止させる操作をするか、ターボタイマー作動開始から3秒以上経過したあと、本品の安全機能を利用してエンジンを止めることができます。
（→P28）
※サイドブレーキ検出を行なっている場合、サイドブレーキを掛けなければターボタイマーは作動しません。

## 設定方法



### ❶ アンテナユニットの設定スイッチNo.3「ターボタイマー」を切り替えます。

※ターボタイマーの作動時間は1分または3分のどちらかに切り替えることができます。作動時間の切り替えについてはP52の「ターボタイマー機能の動作時間設定」を参照願います。




| スイッチの位置 | 動作 |
|---|---|
| OFF（上側） | 使用しない（標準設定） |
| ON（下側） | 使用する |

### ❷ 設定内容をメインユニットに反映させるために、リモコンでエンジンストップの操作をします。

# 2段階ショックセンサーが反応した時の警報レベルを変更する

## 解説

本品は、標準の2段階ショックセンサーが反応した時の警報レベルを変更することができます。

▼設定できる警報レベルについて

| | |
|---|---|
| 「L」<br>注意・警告<br>（標準設定） | 微衝撃センサー反応時・・・「注意」（車両側6音色サイレンが「ピュッピュッ」と鳴り、リモコンに「LO」の通報が行なわれます。） |
| | 高衝撃センサー反応時・・・「警告」（車両側6音色サイレンが約1秒鳴り、リモコンに「MID」の通報が行なわれます。） |
| 「H」<br>警告・撃退 | 微衝撃センサー反応時・・・「警告」（車両側6音色サイレンが約1秒鳴り、リモコンに「MID」の通報が行なわれます。） |
| | 高衝撃センサー反応時・・・「撃退」（車両側6音色サイレンが約30秒（※）鳴り、リモコンに「HI」の通報が行なわれます。） |

（※）撃退警報時間の設定（→P57）によります。

・「H」に設定した上で2段階ショックセンサーの感度を弱めに設定しておくと、誤作動は少なく、かつ万一の際には強い警告を行なうことができます。

**オプションの通報探索ユニットを使用している場合**

「H」に設定しておくことで、高衝撃センサーが働いた際にも電話通報を行なうようにすることができます。

**オプションのエリアセンサーを使用している場合**

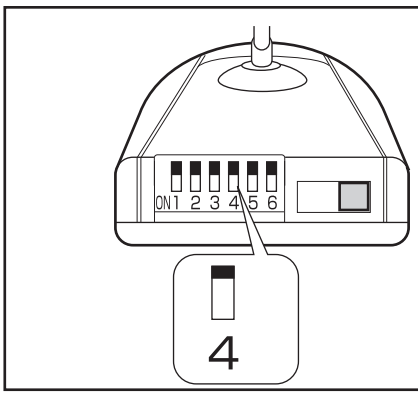
「H」に設定した上でエリアセンサーが反応したときに「注意」警報が行なわれるようにしておくと、リモコンへの通報レベルによってどのセンサーが働いたかを詳しく知ることができるようになります。

### 参考

- 「H」に設定した状態で高衝撃センサーが反応した場合、一旦「警告」のサイレンが鳴った後「撃退」が鳴ることがありますが異常ではありません。
- この設定を切り替えても、エンジンスターターやターボタイマー作動中は標準ショックセンサーを働かせることはできません。
- この設定は標準の2段階ショックセンサーの警報レベルのみを切り替えます。オプションのショックセンサーを接続している場合、この設定によってオプションのショックセンサーの警報レベルは変更されません。

## 設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.4「標準ショックセンサー警報レベル」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | 標準ショックセンサー<br>警報レベル |
|---|---|
| OFF（上側） | 「L」<br>注意・警告<br>（標準設定） |
| ON（下側） | 「H」<br>警告・撃退 |

# サイレンを鳴らさず セキュリティをON/OFFする

## 解 説

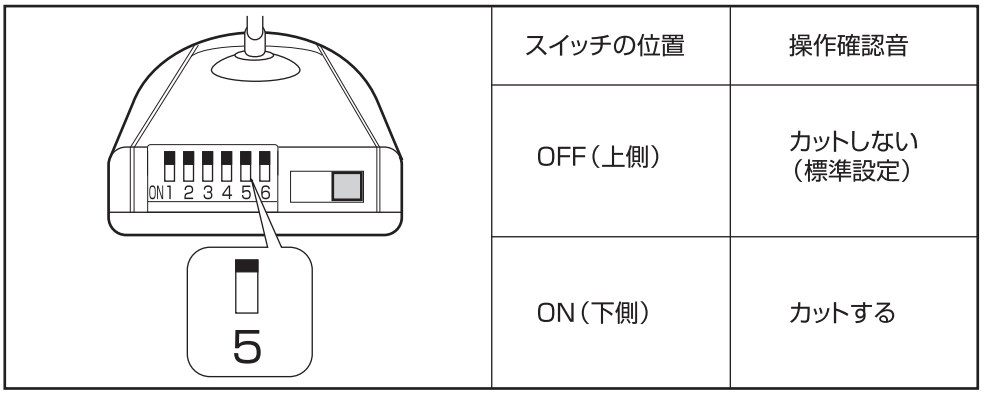
本品は、セキュリティをON/OFFする際の車両サイレン音（操作確認音）をキャンセルすることができます。
使用される場所の環境に合わせて設定してください。

**参考**

・この設定に関わらず、LV 3S でセキュリティを使用する場合は操作確認音は鳴りません。

## 設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.5「操作音カット」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | 操作確認音 |
|---|---|
| OFF（上側） | カットしない（標準設定） |
| ON（下側） | カットする |

# 「注意」および「警告」のサイレンを鳴らさないようにする

## 解説

本品は、「注意警報」および「警告警報」を鳴らさないように設定することができます。
その場合でもリモコンへの通報は行なわれます。
2段階ショックセンサーの反応時に車両サイレンを鳴らしたくないような場合にご使用ください。

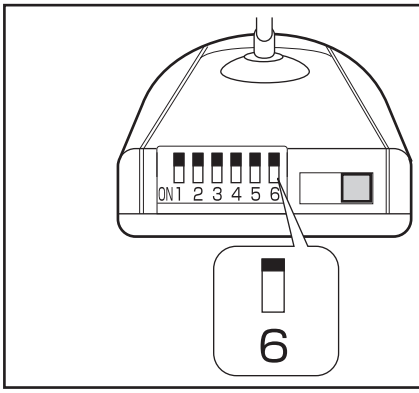
### 参考

この設定で鳴らさないようにできるセンサー

・微衝撃センサー
・高衝撃センサー（標準ショックセンサーの警報レベル（→P41）が「L」の場合のみ）
・オプションケーブルの注意入力コードに接続したオプションセンサー
・オプションケーブルの警告入力コードに接続したオプションセンサー

## 設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.6「注意・警告音カット」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | 注意・警告音カット |
|---|---|
| OFF（上側） | カットしない（標準設定） |
| ON（下側） | カットする |

# LEDスキャナー機能のON/OFFを設定する

## 解説

本品は、アンテナユニットのLEDスキャナーを作動させるかどうか設定することができます。

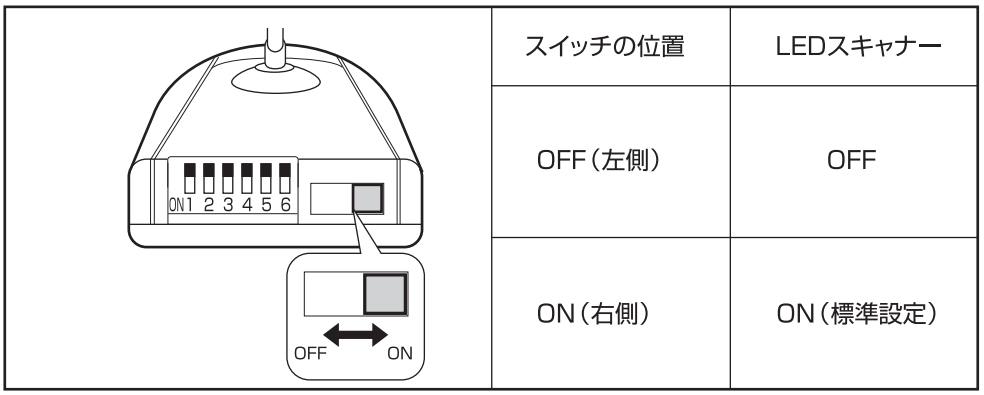
### 参考

・LEDスキャナーの消費電流について
本品のLEDスキャナーは、約0.2mAという非常に低い消費電力で作動しているため、LEDスキャナーを使用することで車両バッテリーに過大な負担を与える心配はありません。

・スリープモード時の動作について
本品のアンテナユニットは、14日以上車両のエンジンを始動させなかった場合、「スリープモード」に入り、セキュリティ機能に関わる電波の送受信以外の機能を停止します。
尚、その際は本設定に関係なくLEDスキャナーが点灯しなくなりますのでご注意ください。

## 設定方法

アンテナユニットのスライドスイッチを切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | LEDスキャナー |
|---|---|
| OFF（左側） | OFF |
| ON（右側） | ON（標準設定） |

# システム初期設定

この項では、取付け時に行う設定内容を詳しく解説しています。
通常、取付け後に設定を変更する必要はありませんが、別売オプションを追加された場合や、車の駐車環境が変わるなどした場合に必要に応じて設定し直すことができます。

またこの設定項目の中には、むやみに変更すると、各機能が正常に作動しなくなったり、セキュリティが誤作動あるいは未作動を起こす原因となるものがありますので、必要な場合以外は変更しないようにお願いします。


エンジンスターター機能設定 ① サイドブレーキ検出の設定・・・・・・・ 46
エンジンスターター機能設定 ② P/N検出・フットブレーキ検出の設定・・ 47
エンジンスターター機能設定 ③ ホンダABS装着車に取付ける場合の設定・・ 48
エンジンスターター機能設定 ④ ノイズ検出モードの設定・・・・・・・・・ 49
エンジンスターター機能設定 ⑤ グロータイムの設定 ・・・・・・・・・・ 50
エンジンスターター機能設定 ⑥ 自動停止時間の設定 ・・・・・・・・・・ 51
ターボタイマー機能の動作時間設定 ・・・・・・・・・・ 52
ボンネットオープンセンサーを使用する場合の設定 ・・・・・・・・・・ 53
スタータカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定 ・・・・・・・・・・ 54
電流センサーのON/OFF設定 ・・・・・・・・・・ 55
電流センサー感度の選択 ・・・・・・・・・・ 56
撃退警報時間の設定 ・・・・・・・・・・ 57
オンタイマー機能の時間設定 ・・・・・・・・・・ 58
エンジンスターター/ターボタイマー作動中の撃退入力検出の有無設定・・・・ 59
サイレントモード作動中のデータ出力コード（橙）に対する撃退出力の有無設定・・ 60
P/N検出時のST1/ST2切替 ・・・・・・・・・・ 61
P/N検出データの設定方法 ・・・・・・・・・・ 62

# エンジンスターター機能設定 ①
# サイドブレーキ検出の設定

**※直接配線キットSQ110で取付けている場合は設定の必要はありません。**

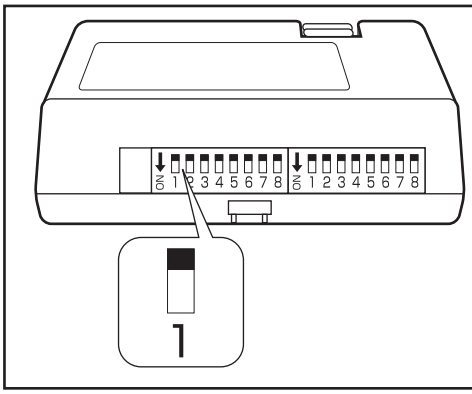
※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

## 解説

本品は、サイドブレーキ（または足踏み式のパーキングブレーキ）が掛かっていない時はリモコンからエンジンを始動できないようにすることができます。
これは本品の安全機能の1つですが、寒冷地などサイドブレーキを掛けずに駐車することがある場合は標準設定のままご使用ください。
また、サイドブレーキ検出を行う（「キャンセルしない」に設定する）場合は必ずサイドブレーキ検出コードを車両に配線する必要があります。
車両配線に関しては、別紙「SQ5000取付マニュアル」を参照してください。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチA（左側）のNo.1「サイドブレーキ検出キャンセル」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | サイドブレーキ検出キャンセル |
|---|---|
| OFF（上側） | キャンセルしない |
| ON（下側） | キャンセルする（標準設定） |

# エンジンスターター機能設定 ②
# P/N検出・フットブレーキ検出の設定

**※直接配線キットSQ110で取付けている場合は設定の必要はありません。**

※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

## 解説

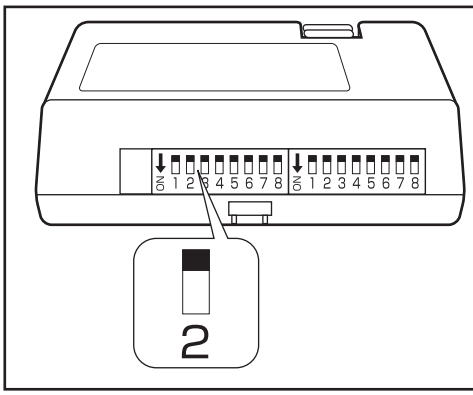
本品には、エンジンスターターの安全機能としてフットブレーキ検出機能とP/N検出機能がありますが、
使用にあたっては、これらの安全機能のうちどちらかを選択していただく必要があります。
これらはエンジンスターター機能およびターボタイマー機能を安全に使っていただくための重要な設定ですので、取付け時に正しく設定が行なわれている必要があります。

### 参考

- フットブレーキ検出を行う場合は必ずフットブレーキ検出コードを車両に配線する必要があります。
  詳しくは、別紙「SQ5000取付マニュアル」を参照してください。
- P/N検出を行なう場合は併せてP/N検出時のST1/ST2切替（→P61）および P/N検出データの設定（→P62）を行なう必要があります。
- P/N検出は、車両によっては検出できない場合があります。その際はご面倒でもフットブレーキ検出を行なう必要があります。
- P/N検出は本品の構造上、以下のような場合にデータを消失するようになっています。
  これらの作業を行なった場合は、P/N検出データの設定を行なってください（→P62）
  ▼本品リセットスイッチを使用してメインユニットをリセットした場合
  ▼車両のバッテリーを交換した場合
  ▼本品メインユニットのハーネスを抜き差しした場合
  ▼その他本品メインユニットの電源が断ち切られた場合

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチA（左側）のNo.2「フット/PN切替」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | 動　　作 |
|---|---|
| OFF（上側） | フットブレーキ検出 |
| ON（下側） | P/N検出<br>（標準設定） |

## 関連項目

P/N検出データの設定方法（→P62）
P/N検出時のST1/ST2切替（→P61）
バッテリー交換時やリセットスイッチ使用時などのP/N検出データ再設定について（→P67）

# エンジンスターター機能設定 ③
# ホンダABS装着車に取付ける場合の設定

**※直接配線キットSQ110で取付けている場合は設定の必要はありません。**

※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

## 解 説

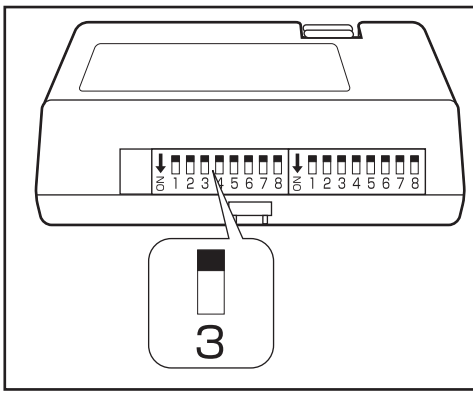
ABS（アンチロック・ブレーキ・システム）を純正装着しているホンダ車に本品を取付ける際のみこの設定を行なってください。
これ以外の車種に取付ける場合は必ず標準設定のままご使用ください。

### 参考

- ホンダABS装着車に取付ける場合にこの設定を誤ると、エンジンスターターによる始動時にメーターパネル内のABS警告灯が点灯したままになる場合があります。
- ホンダABS装着車以外に取付ける場合にこの設定を誤ると、エンジンスターターによる始動が正常に行なわれなくなる場合があります（セルは回るがエンジンが掛からないなど）。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチA（左側）のNo.3「ホンダABS」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | ホンダABS |
|---|---|
| OFF（上側） | 非装着車<br>（標準設定） |
| ON（下側） | 装 着 車 |

# エンジンスターター機能設定 ④
# ノイズ検出モードの設定

**※直接配線キットSQ110で取付けている場合は設定の必要はありません。**

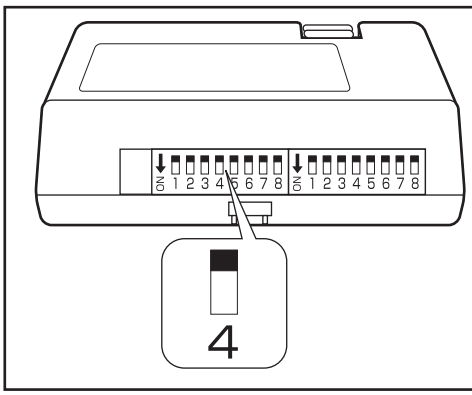
※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

## 解 説

エンジンスターター使用時、実際にはエンジンが掛かっているにも関わらず本品が始動判断を行なえないために、すぐにエンジンが停止してしまう場合に設定を行なってください。
それ以外の場合は必ず標準設定のままご使用ください。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチA（左側）のNo.4「ノイズ検出」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | ノイズ検出 |
|---|---|
| OFF（上側） | しない<br>（標準設定） |
| ON（下側） | す　る |

# エンジンスターター機能設定 ⑤
# グロータイムの設定

**※直接配線キットSQ110で取付けている場合は設定の必要はありません。**

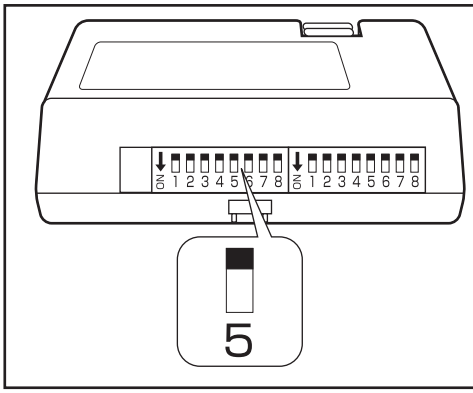
※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

## 解 説

この設定により、アンテナユニットがエンジンスターターの始動信号を受信してから、セルを回すまでの時間を変更することができます。
グロータイムを短く設定すると、車両によっては正常なエンジン始動ができなくなります。
（特にディーゼル車の場合は冬期など寒冷時に掛からなくなる恐れがあります。通常は標準設定のままお使いください。）

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチA（左側）のNo.5「グロータイム」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | グロータイム |
|---|---|
| OFF（上側） | 8 秒<br>（標準設定） |
| ON（下側） | 5 秒 |

# エンジンスターター機能設定 ⑥
# 自動停止時間の設定

**※直接配線キットSQ110で取付けている場合は設定の必要はありません。**

## 解 説

本品は、エンジンスターターでエンジンを始動した後そのままにしておくと、設定した時間でエンジンを自動的に停止するようになっています。

**参考**

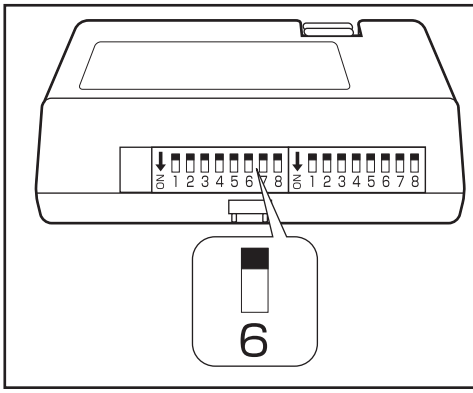
寒冷地などで、15分では暖機運転が完了しない場合は30分に設定することができます。

**注意**

いずれの設定の場合も、必要以上の無駄なアイドリングは避けてください。
排気ガスなどにより環境汚染の原因となります。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチA（左側）のNo.6「アイドリング時間」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | アイドリング時間 |
|---|---|
| OFF（上側） | 15 分<br>（標準設定） |
| ON（下側） | 30 分 |

# ターボタイマー機能の作動時間設定

**※直接配線キットSQ110で取付けている場合は設定の必要はありません。**

※この設定はターボタイマー機能を使用する場合のみ設定してください。

## 解説

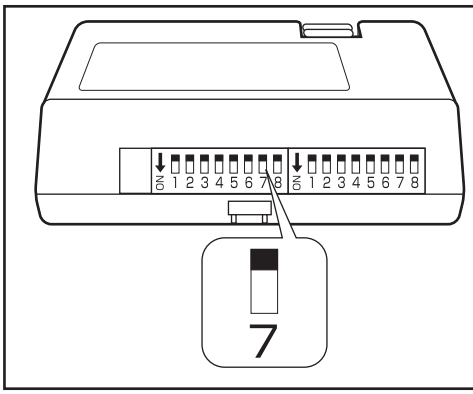
本品は、ターボタイマーの作動時間を1分または3分から選択することができます。

### 参考

ターボタイマー機能は、アンテナユニットの設定スイッチNo.3「ターボタイマー」をON（使用する）に設定した場合のみ作動します（→P40）。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチA（左側）のNo.7「ターボタイマー時間」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | アイドリング時間 |
|---|---|
| OFF（上側） | 1 分<br>（標準設定） |
| ON（下側） | 3 分 |

### 関連項目

ターボタイマーを使用するかどうか選択する（→P40）

# ボンネットオープンセンサーを使用する場合の設定

**※直接配線キットSQ110で取付けている場合は設定の必要はありません。**

※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。

## 解説

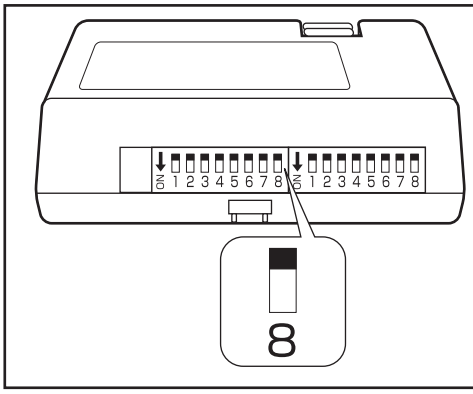
※この設定はボンネットオープンセンサーTE602（別売）を使用する場合のみ設定してください。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

**⚠注意**

ボンネットオープンセンサーを接続していないにも関わらずこの設定を変更すると、エンジンスターター機能およびターボタイマー機能が使用できなくなりますのでご注意ください。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチA（左側）のNo.8「ボンネットセンサー」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | ボンネットセンサー |
|---|---|
| OFF（上側） | 使用する |
| ON（下側） | 使用しない<br>（標準設定） |

# スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定

**※直接配線キットSQ110で取付けている場合はこの機能をお使いいただくことはできません。**

## 解 説

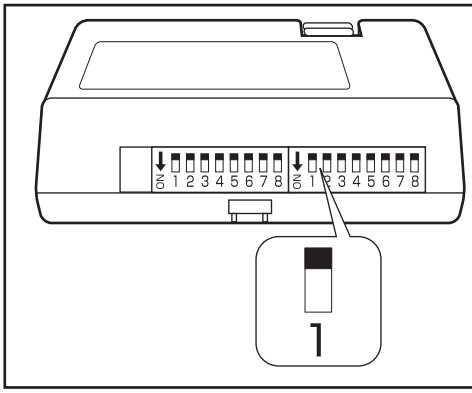
本品は、万一の際に車両の乗り逃げを防ぐため、セキュリティがONになっている時にはセルモーターが回らないようにすることで、例え純正の鍵を使用した場合でもエンジンを掛ける動作を禁止できます。
リモコンでセキュリティをOFFにすると通常のエンジン始動が行なえるようになります。
また、本機能の作動中でも、本品のエンジンスターター機能を使用してエンジンを掛けることは可能です。
尚、この機能は純正イモビライザー装着車でも同様にお使いいただけます。

### ⚠注意

- この設定を行なった場合、防犯性は増しますが、例えばセキュリティON中にリモコンが電池切れになりセキュリティをOFFにできない状況ではエンジンが始動できなくなることをご承知置きください。その場合はリモコンを充電するか、リモコンの電池を市販の単4電池に交換してからセキュリティをOFFにして本機能を解除する必要があります。
- 万一セキュリティON中にリモコンの紛失や破損などがあり、セキュリティをOFFにできない場合は、本品のリセットスイッチを使用して本機能の強制解除を行なっていただく必要があります。そのため、リセットスイッチの位置は事前に確認しておくことをおすすめします。また、リセットスイッチは第三者に見つかりにくい場所に設置しておいてください。
  また特に LV0 でセキュリティをONした場合（→P32）も、乗り込む際には忘れずに本品のリモコンでセキュリティをOFFする必要があります。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチB（右側）のNo.1「スターターカット」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | スターターカット |
|---|---|
| OFF（上側） | 使用しない（標準設定） |
| ON（下側） | 使用する |

## 強制解除の方法

セキュリティON中のリモコン紛失などの場合は以下の手順で本機能を強制解除してください。
①純正キーを使用して車両ドアを開ける
　※この際は、ドアの不正開放と判断されるため6音色サイレンが鳴りますのでご注意ください。
　（Lv0およびLv3sの設定を行なっている場合以外）
②純正キーをキーシリンダーに差し込んで、エンジンを始動させる時と同様に回す
③一旦サイレンが停止するので、その間に本品のリセットスイッチをOFFにする
　※リセットスイッチをOFFにしないと、しばらくして再び6音色サイレンが鳴り出します。
④リセットスイッチをONにすると、セキュリティが解除された状態に戻ります。

尚、P/N検出を設定している場合（→P47）は、リセットスイッチをOFFにするとP/N検出の設定データが失われます。その場合はP/N検出のデータを再度設定（→P62）し直してください。

# 電流センサーのON/OFF設定

## 解説

本品は、ドアやトランクの不正開放を簡易的に検出できるよう、電流センサーを装備しています。
電流センサーとは、ドアやトランクを開けた際に車両のルームランプやトランク照明などが光ることを利用し、その際に起きる車体の微妙な電流変化を検知するものです。

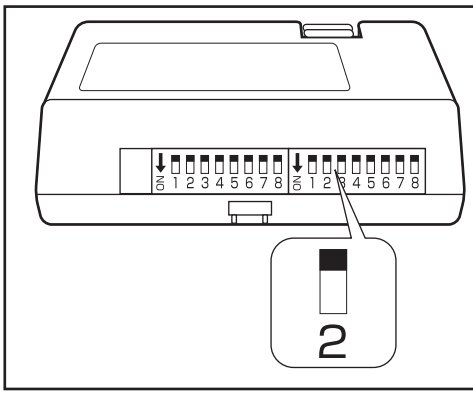
### ⚠注意

本機能は簡易的にドアなどの開放を検出するもので、車両によっては誤作動または未作動となる可能性があることをご承知置きください。

- 車両によっては、駐車中にドア開放以外の場合にも車体の電流が微妙に変化している場合があり、その場合は電流センサーが誤って反応する可能性があります。
  また、ドア開放時の電流変化が少ない車両の場合は、本センサーが反応できない場合があります。
- 電流センサー反応時はリモコンの液晶画面表示がセンサーレベル「HI」で行なわれます。
  これは、通常のドア検出と電流センサーの検出を区別するためです。
  ※6音色サイレンはドア検出の場合と同様の動作となります。（→P26）
- ドア検出コードを配線している場合は電流センサーをOFFにしてご使用ください。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチB（右側）のNo.2「電流センサー」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | 電流センサー |
|---|---|
| OFF（上側） | 使用しない（標準設定） |
| ON（下側） | 使用する |

### 関連項目

電流センサー感度の選択（→P56）

# 電流センサー感度の選択

**（電流センサーがONの場合のみ有効です）**

## 解 説

本品の電流センサーは2段階の感度調節が可能です。

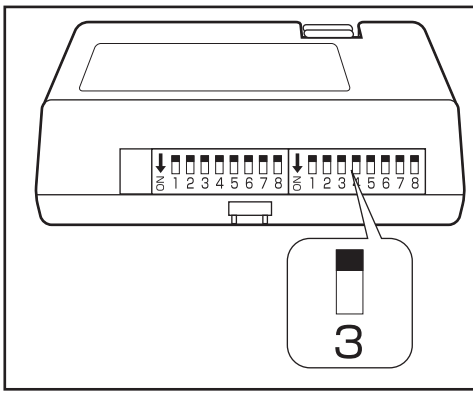
## ⚠注意

本機能は簡易的にドアなどの開放を検出するもので、車両によっては誤作動または未作動となる可能性があることをご承知置きください（詳しくは55ページを参照願います）。

・電流センサーは感度を上げると誤検出しやすくなるため、必要以上に感度を上げないでください。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチB（右側）のNo.3「電流センサー感度」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | 電流センサー感度 |
|---|---|
| OFF（上側） | 弱　い<br>（標準設定） |
| ON（下側） | 強　い |

## 関連項目

電流センサーのON/OFF設定（→P55）

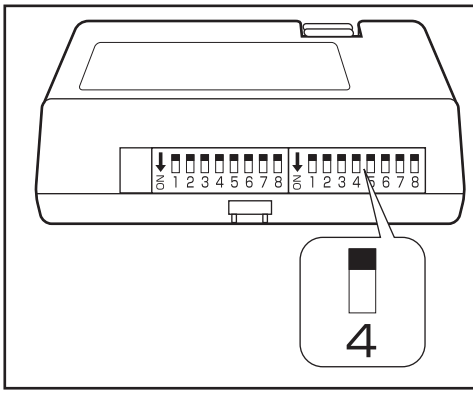
# 撃退警報時間の設定

## 解 説

撃退警報時間とは、ドアセンサー・電流センサー・高衝撃センサー（設定「H」の時のみ・・・→P41）およびオプションケーブルの撃退入力コードに接続したセンサーが反応した場合に車両側で行なう警報の時間です。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチB（右側）のNo.4「撃退警報時間」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | 撃退警報時間 |
|---|---|
| OFF（上側） | 30 秒<br>（標準設定） |
| ON（下側） | 3 分 |

# オンタイマー機能の時間設定

## 解 説

本品は、セキュリティONの操作から一定の時間は下記のセンサーを作動させなくすることができます。

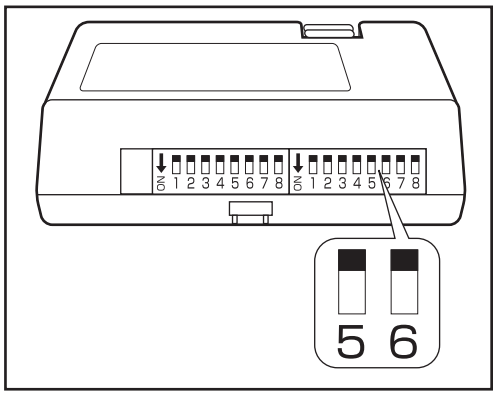
- 微衝撃センサー
- 高衝撃センサー
- 電流センサー
- 注意入力コードまたは警告入力コードに接続したオプションセンサー

この機能は以下のような車両の場合に便利です。

- エンジンを停止してから一定時間経過後に自動的に電動ファンが回る車の場合
- エンジンを停止してから一定時間経過後にオートスタビライザーなどが自動的に作動する車の場合
- エンジンを停止してから一定時間経過後に自動的にエアコンのファンが作動する車の場合

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチB（右側）のNo.5および6「オンタイマー時間」を切り替えることで設定が行なえます。




オンタイマー時間の設定
（2個のスイッチの組み合わせで時間を決定します）

| | No.5 | No.6 |
|---|---|---|
| 使用しない（標準設定） | OFF | OFF |
| 1 分 | ON | OFF |
| 15分 | OFF | ON |
| 60分 | ON | ON |

**参考**

●ターボタイマー作動中にセキュリティをONにした場合は、ターボタイマーが停止した時点から、設定したオンタイマー時間経過後に全てのセンサーがONになります。

# エンジンスターター/ターボタイマー作動中の撃退入力検出の有無設定

**※オプションケーブルの撃退入力コードに別売オプションを接続している場合のみ設定が必要です。**
**※直接配線キットSQ110で取付けている場合は設定の必要はありません。**

## 解 説

本品は、セキュリティがONの状態でもエンジンスターター機能を使用してエンジンを掛けることができ、また、ターボタイマー作動中でもリモコンからセキュリティをONにすることができます。
本設定を行なうと、以上のように本品のエンジンスターター機能またはターボタイマー機能を使用してエンジンを掛けている間に、オプションケーブルの撃退入力コードに接続したセンサーの 信号を検出するように設定できます。

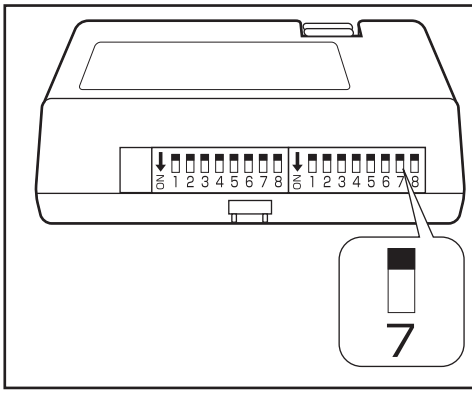
## ⚠注意

撃退入力コードに接続しているオプションセンサーが、エンジン作動中に誤作動を起こす可能性がある場合は、本設定は変更しないでください。

- ショックセンサー・エリアセンサーなど、エンジンが掛かっていることによる車の振動などで反応する可能性がある場合は「しない」に設定してください。
- ループセンサーなど、エンジンが掛かっていることによる車の振動などで反応しないセンサーの場合は「する」に設定することをおすすめします。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチB（右側）のNo.7「アイドリング中の撃退線検出」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | アイドリング中の撃退線検出 |
|---|---|
| OFF（上側） | しない（標準設定） |
| ON（下側） | す　る |

# サイレントモード作動中のデータ出力コード（橙）に対する撃退出力有無設定

**※オプションケーブルのデータ出力コード（橙）に別売オプションを接続している場合のみ設定が必要です。**

## 解 説

この設定では、サイレントモード（ LV 3S ）時に以下のセンサーが反応した際にオプションケーブルのデータ出力コード（橙）に接続しているオプションを作動させるかどうか選択できます。

- 電流センサー
- ドアセンサー
- 撃退入力コードに接続したセンサー
- 高衝撃センサー（警報レベル「H」の場合･･･→P41）

### 参考

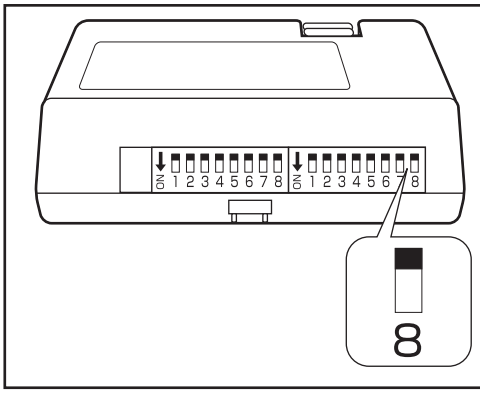
接続しているオプションによって以下のように設定することをおすすめします。

- スキャナー類やスモールハザードフラッシュリレーなど「光る」オプションの場合 ･･･････････････････出力する
- PH500通報探索ユニットなど「通報する」オプションの場合 ･･･････････････････････････････出力する
- スーパーボイスサイレンなど「鳴る」オプションの場合 ･･･････････････････････････････････出力しない

特に通報探索ユニットの場合は、この設定が「しない」になっている場合はサイレントモード（ LV 3S ）時に緊急通報が行なわれませんのでご注意ください。

## 設定方法

メインユニットの設定スイッチB（右側）のNo.8「 LV 3S 時の橙コード撃退出力」を切り替えることで設定が行なえます。




| スイッチの位置 | LV 3S 時の橙コード撃退出力 |
|---|---|
| OFF（上側） | しない（標準設定） |
| ON（下側） | す　る |

# P/N検出時のST1/ST2切替

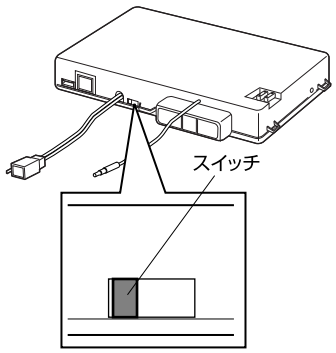
**※本体設定がP/N検出モードになっている場合（→P47）のみ設定が可能です。**
**また、直接配線キットSQ110で取付けている場合この設定はできません。**

## 解 説

この設定は、P/N検出（→P47）を使用する場合、正常なシフトポジション検出ができるように行なうものです。

## 設定方法

メインユニットの専用ハーネス差し込み口横にあるスライドスイッチ を切り替えることで設定が行なえます。
正常にP/N検出が行なえる位置でご使用ください。




| スイッチの位置 | P/N検出モード |
|---|---|
| 右　側 | ST1（標準設定） |
| 左　側 | ST2 |

## 関連事項

P/N検出・フットブレーキ検出の切替（→P47）
P/N検出データの設定方法（→P62）

# P/N検出データの設定方法

**※本体設定がP/N検出モードになっている場合（→P47）のみ設定が可能です。**
**また、直接配線キットSQ110で取付けている場合この設定はできません。**

## 解 説

以下のような場合には、本頁記載の手順に従ってP/N検出データの設定が必要です。

▼はじめて本品を取付けた時
▼本品を他の車両に付替えた場合
▼本品リセットスイッチを使用してメインユニットをリセットした場合
▼本品のヒューズを交換した場合
▼車両のバッテリー交換した場合
▼本品メインユニットのハーネスを抜き差しした場合
▼その他本品メインユニットの電源が断ち切られた場合

## 設定方法

### ＜P/N検出データの設定手順＞

※設定は車に乗り込んで行います。

記号の見方

| | |
|---|---|
| ▬ | 長い音（ピー） |
| ● | 短い音（ピッ） |

シフトレバーを「P」にしてキーを抜く

リモコンでエンジンスタート操作をする
（EST押してからA）

**エンジンが掛かる場合**
P/N設定済みあるいはフット接続済みです。
（このままお使いください）

アンテナユニットから「ピー・ピー・ピー・ピー」×2回鳴る
▬ ▬ ▬ ▬ ×2
※他の音が出る場合はP69参照

20秒以内に
キーをON（メーターパネルが点灯する位置）にする

（NG）

アンテナユニットから「ピ・ピ・ピ・ピー」×2回鳴る
● ● ● ▬ ×2

ハーネス品番およびハーネス取付状態を確認してください。

※20秒以内にキーをONに出来なかった場合は、もう一度最初から設定を行います。

（OK）
※OK・NG いずれかの音がするまでそのまま待機

アンテナユニットから「ピー」と1回鳴る
▬ ×1

20秒以内に
ブレーキを踏んでシフトレバーを「R」にする

（NG）

アンテナユニットから「ピ・ピ・ピ・ピー」×2回鳴る
● ● ● ▬ ×2

（OK）
※OK・NG いずれかの音がするまでそのまま待機

アンテナユニットから「ピー」と1回鳴る
▬ ×1

**P/N検出モードを切り替えて（→P61）再度設定を行います。**

※20秒以内にシフトを「R」に出来なかった場合は、もう一度最初から設定を行います。

**設定完了**

P/N検出モードを切り替えても設定できない場合

P/N検出の設定ができない車です。専用ハーネスの「フットブレーキ検出コード」を、「車両のフットブレーキを踏んだときに12V」かつ、「離したときに0V」となるコード（通常はブレーキペダルの根元にあります）に、付属のワンタッチコネクターBで接続します。
正常に接続できた場合は、フットブレーキを踏んだ際にメインユニット内の検電LEDが点灯します。また、フットブレーキの配線を行なった場合は、メインユニットの設定スイッチA（左側）No.2（フット/PN切替）を「フット」（OFF側）に切り替えてください。

## 関連事項

P/N検出・フットブレーキ検出の切替（→P47）
P/N検出時のST1/ST2切替（→P61）

# 取付け後のメンテナンスなど

この項では、消耗品パーツの交換や故障と思われる際のトラブルシューティングなど、
本品を長くご愛用いただくために必要な情報を解説しています。


スペアリモコンを使用する（リモコンIDの書込み方法） ・・・・・・・・・・ 64
リモコンの電池交換について ・・・・・・・・・・ 65
交換用ヒューズについて ・・・・・・・・・・ 66
バッテリー交換時やリセットスイッチ使用時などのP/N検出データ再設定について・・・ 67
エンジンスターター機能が作動しない場合 ・・・・・・・・・・ 68
故障かな?と思ったら ・・・・・・・・・・ 70

# スペアリモコンを使用する（リモコンIDの書込み方法）

## 解説

本品は、スペアリモコン（別売）を追加することで、2台のリモコンで操作することができるようになります。
（追加できるリモコンは1台までです。）

### ＜本品に使用できるリモコンの一覧＞

※ここに掲載されているリモコンは予告なく生産終了になる場合もありますのであらかじめご了承ください。また、この他の品番のリモコンが追加発売される場合もあります。
※リモコンはお近くのカー用品専門店などでお買い求めいただけます。（弊社での通販などは行っていません。）また、店頭に在庫が無い場合はお取り寄せとなりますのでご了承ください。

| リモコン品番 | 使用可能な操作・機能 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | セキュリティのON/OFF | セキュリティレベルの切替え | エンジンのスタート/ストップ | 警報のリモコン通報 | 遠距離からのコントロール |
| SQ105 | ○（ONは常にLv3） | × | ○ | × | ○ |
| TER615/620/670 | ○（ONは常にLv3） | × | ○ | × | ○ |
| SQ106 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

※SQ105・・・・スーパーバリケードSQ3000付属のリモコンと同仕様
※TER615/620/670・・・・弊社リモコンエンジンスターター用スペアリモコン
※SQ106・・・・本品付属のリモコンと同仕様

## IDの書込み方法

（SQ105/SQ106/TER615/620/670の場合。その他品番のリモコンについては、スペアリモコン付属の取扱説明書に従ってください。）

2台のリモコンを使用できるようにする場合は、あらかじめ2台のリモコンを準備しておいてください。

1・車両のエンジンが停止した状態でキーを抜きます。
2・アンテナユニットの設定スイッチNo.1「ID書込」を「書込」（ON側）にします。
3・およそ3秒くらい待ってから、リモコンでエンジンストップの操作をします。
4・アンテナユニットから「ピー」という確認音が鳴り、しばらくしてからリモコンからも確認音が鳴ります。
5・もう1台のIDを書き込む場合は、リモコンを変えて更に3～4の操作を繰り返します。
6・書込みが終了したら、アンテナユニットの設定スイッチNo.1「ID書込」を「通常」（OFF側）にします。

※周囲の電波状況などにより、正常に書込みできない場合があります。そのような場合は再度書込み操作を行ってください。

**参考** スペアリモコンを使用する場合は、以下の点にご注意ください。
▼スペアリモコンでセキュリティをONにした場合、本品付属のリモコン液晶画面のセキュリティレベルはLv__と表示されます。
▼SQ105/TER615/620/670の場合、ドアロックしたままセキュリティのみ解除する操作（→P35）はできません。また、リモコン操作音の停止（→P30）やボタンロック（→P31）機能はありません。

# リモコンの電池交換について

## 解 説

本品は、専用の単4型ニッケル水素電池のほかに、緊急用として市販の単4型電池を使用することができます。
また、付属の専用ニッケル水素電池は、充放電を繰り返すごとに、使用できる時間が短くなるため、定期的な交換が必要です（約1年毎の交換をおすすめします）。
ここでは、このような場合の電池交換方法について解説します。

### ＜本品に使用できる電池の一覧＞

※下記は一般的な電池を使用した場合の参考値です。
※SQ107はお近くのカー用品専門店などでお買い求めいただけます（弊社での通販などは行なっていません）。
在庫が無い場合はお取り寄せとなりますのでご了承ください。

| 電池の種類 | | 本品への使用 | 本品付属リモコンスタンドでの充電 | 市販のニッケル水素用充電器での充電 | 満充電（アルカリ・マンガンは開封時）からの使用可能時間（※） |
|---|---|---|---|---|---|
| SQ107(専用電池) | ニッケル水素充電池 | ○ | ○ | ×（注2） | 約100時間 |
| 市販単4電池 | ニッケル水素充電池 | ○ | ×（注1） | ○（注3） | |
| 〃 | アルカリ電池 | ○ | ×（注1） | × | |
| 〃 | マンガン電池 | ○ | ×（注1） | × | 1日未満 |

（※）使用可能時間はあくまで目安です。電池の種類や周囲の温度または電波状態などによって異なるため、記載された内容を保証するものではありません。

注1‥‥誤充電防止回路が働くため、万一リモコン充電スタンドに置いても充電されません。
注2‥‥安全のため行わないでください。
注3‥‥市販充電器での充電は本品から電池を外して行う必要があります。

## 電池の交換方法

※交換時は非常に小さいネジを外します。万一落とした場合に紛失しないよう、できるだけ室内での作業をおすすめします。

1・リモコン本体右横の電源スイッチをOFFにします。
2・本品付属の精密ドライバーのキャップ部分を手で回して外します（＋側を使用します）。
3・精密ドライバーを使用し、リモコン裏面の電池ブタ下部にある＋ネジを外します（ネジの紛失に注意）。
4・電池ブタを下にずらすようにしてから持ち上げます。
5・極性に注意して電池を交換します。
6・電池ブタを閉め、3で外したネジで止めます。
7・リモコン本体右横の電源スイッチをONにします。
8・精密ドライバーは紛失しないようにキャップを元のように戻しておいてください。

緊急用に市販の電池に交換した場合は、なるべく早めにSQ107へ交換されることをおすすめします。

## 使い終わった電池は

●本品付属の充電池（SQ107）および市販の充電池の場合

最寄りのリサイクル協力店へ
詳細は、社団法人電池工業会小形二次電池再資源化推進センターのホームページをご参照ください。
最寄りのリサイクル協力店が検索できます。　http://www.JBRC.com

●充電できない電池の場合

各自治体が定める方法で処理してください。

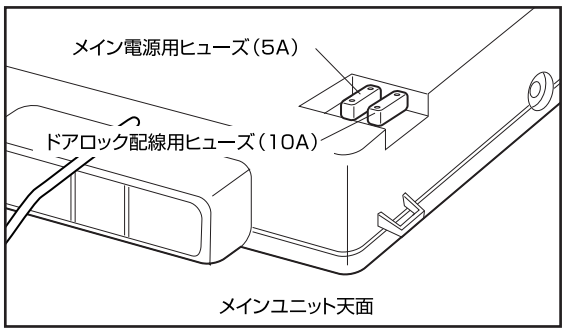
# 交換用ヒューズについて

## 解 説

本品は、万一の配線ショート等に備え、メインユニットに交換可能なヒューズを装備しています。

**⚠注意** 指定容量以外のヒューズは使用しないでください。故障や電気配線の損傷・火災の原因となる場合があります。

## ヒューズの交換方法




共に市販の「ミニ平形ヒューズ」を使用します。
専用オプションの設定はありません。

1・エンジンを停止させ、本品のリセットスイッチをOFFにします。
2・切れているヒューズを引き抜きます。（本品に専用工具は付属していません。市販の工具を使用してください。）
3・ヒューズが切れた原因が取り除かれていることを確認してから、新しいヒューズを差し込みます。
4・本品のリセットスイッチをONにします。
5・本品を作動させ、ヒューズが切れないことを確認します。
6・必要に応じてP/N検出の再設定を行なって下さい（→P62）。

# バッテリー交換時やリセットスイッチ使用時などのP/N検出データ再設定について

**※フットブレーキ配線を行っている場合は設定の必要がありません。**
**※直接配線キットSQ110で取付けている場合は設定の必要はありません。**

## 解説

本品のP/N検出データは、以下のような場合にメモリーから消滅します。
その場合、P62記載の手順に従ってP/N検出データを再設定する必要があります。

▼本品を他の車両に付け替えた場合
▼本品リセットスイッチを使用してメインユニットをリセットした場合
▼本品のヒューズを交換した場合
▼車両のバッテリーを交換した場合
▼本品メインユニットのハーネスを抜き差しした場合
▼その他本品メインユニットの電源が断ち切られた場合

**参考** P/N検出の設定を行なわない場合、エンジンスターター機能およびターボタイマー機能が使用できなくなりますが、セキュリティの機能には影響しません。

## 設定方法

設定の方法は62ページをご覧ください。

# エンジンスターター機能が作動しない場合

必ず下記の手順に従って確認作業を行なってください。

## 手順 ❶ リモコンの状態を確認する

・リモコンの電池は正しく入っていますか?(→P65)
・リモコンの電源スイッチはONになっていますか?(→P21)
・リモコンの電池残量が減っていませんか?リモコンの電源スイッチをONにした時に「ピッ」という音が鳴って正しく電源が入るかどうか確認してください。
・リモコンがボタンロックの状態になっていませんか?ボタンロックを解除してから操作してください。(→P31)

## 手順 ❷ 取付車種および取付ハーネス品番を確認する

・取付車種が本品の取付不可車種になっていませんか?(店頭の車種別ハーネス適合表等で確認してください。)
・ハーネスの品番は合っていますか?(店頭の車種別ハーネス適合表等で確認してください。)
・直接配線キット(品番:SQ110)で取り付けている場合はエンジンスターター機能は使用できませんのでご注意ください。

## 手順 ❸ キーでエンジンがかかるかどうか確認する

(※)あらかじめP23の「セキュリティをOFFにする」を参照の上、セキュリティをOFFにしてください。
セキュリティがONの状態になっていて、スターターカット機能の設定(→P54)がONになっている場合はキーでのエンジン始動は行なえません。

**キーでもエンジンがかからない場合**

・専用ハーネスが正しく接続されているかどうか確認してください。
正しく接続されている場合は、キーをONにした際に、メインユニットの検電LEDの緑色が点灯します。点灯しない場合は、接続のゆるみや接続場所を確認してください。

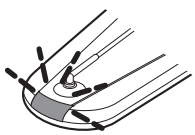
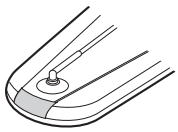
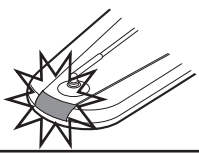
**キーならばエンジンがかかる場合**

・純正イモビライザー装着車の場合は、イモビ付車対応アダプター(TE412など)の配線・ループアンテナの取り付け位置・ケース内のキーの固定位置などを調整してください。
・メインユニットのヒューズが切れていないかどうか確認してください。
・メインユニットの設定スイッチA(左側)No.3「ホンダABS」の設定を確認してください。

## 手順 ❹ 通常待機時のLEDスキャナーの発光状態を確認する

アンテナユニットの先端にあるLEDスキャナーの発光状態を確認します。
確認の際、直射日光の当たる場所など明るいところではLEDスキャナーの発光状態が目視しにくいことがあります。そのような場合はアンテナユニットの周囲を手で覆うなど、LEDの点灯状態が見やすいようにして確認してください。

(※)あらかじめ、P44の「LEDスキャナー機能のON/OFFを設定する」を参照の上、アンテナユニットのLEDが点灯する状態にしてください。

| | LEDの状態 | 原因・対処方法 |
|---|---|---|
|  | ゆっくり点滅を繰り返している場合 | 通常の受信待機中です。手順❺に進んでください |
|  | ランプが消えたままになっている | エンジンキーがONの位置になっている場合は、エンジンキーを抜いてください。キーが抜いてあるにもかかわらず、アンテナユニットのLEDが点滅しない場合、本品のアースコードの接続場所が適切でない可能性がありますので、アースコードの接続場所変更を試してください。また、アンテナユニットのコネクターがメインユニットに正しく接続されているか確認してください。<br>但し、14日以上エンジンを始動していなかった場合は、バッテリー保護のためのスリープモードに入っている可能性がありますので、一旦キーでエンジンをかけてから止める作業をしてスリープモードを解除してください。 |
|  | ずっと点灯し続ける | ID書き込みモードになっています。<br>アンテナユニットの設定スイッチNo.1がONになっている場合はOFFに切り替えてください。 |

## 手順 5 リモコンでのエンジンスタート操作時のLEDスキャナーの発光状態を確認する

本品にはエンジンの始動ができない原因を自己診断して、アンテナユニットのLEDスキャナーおよびブザー音によって知らせる機能があります。

**操作方法** リモコンから、エンジンスタートの操作をしてください。

リモコンの EST ボタンを押し、続けて A ボタンを押します。(→P24)

その時にアンテナユニットのLEDスキャナーおよびブザーの状態を確認してください。

●＝短いブザー音およびＬＥＤの点灯　▬＝長いブザー音およびＬＥＤの点灯

| ブザー音およびLEDの状態 | 原因・対処方法 |
|---|---|
| ▬ ▬ ▬ ▬<br>▬ ▬ ▬ ▬ | P/N検出エラー 1<br>P/N検出が設定されていません。<br>P62を参照の上、P/N検出の設定を行なってください。P/N検出が正常に行なえない車両の場合は、メインユニットの設定スイッチA（左側）No.2（P/N検出）を「フット」（OFF側）に切り替えて、フットブレーキコード（車種別専用ハーネスの細い紫コード）を配線してください。（→別紙SQ5000取付マニュアル参照） |
| ●●●● ●●●● | ボンネット検出エラー<br>ボンネットセンサー（別売）を使用していないにも関わらず、メインユニットの設定スイッチA(左側)No.8（ボンネットセンサー）が「使用する」（OFF側）になっている可能性があります。ボンネットセンサーを使用しない場合は必ず「使用しない」（ON側）に設定しておいてください。<br>ボンネットセンサー（別売）を使用している場合 ボンネットセンサーの取り付け・配線が誤っている可能性があります。ボンネットセンサーの取扱説明書に従って、正しく取付されているかどうか確認してください。 |
| ●●▬ ●●▬ | P/N検出エラー 2<br>シフトポジションが「P」または「N」以外の位置になっている可能性があります。エンジンを掛けることができる位置にシフトポジションを切替えてください。<br>シフトポジションが「P」または「N」の位置であるにも関わらずこのエラーが出る場合は、一旦リセットスイッチをOFF→ONし、P62を参照の上再びP/N検出データの設定を行ってください。 |
| ●●▬● ●●▬● | フットブレーキ検出エラー<br>フットブレーキ検出コード（車種別専用ハーネスの細い紫コード）の配線が誤っている可能性があります。車両のフットブレーキを踏んだ際にメインユニットの検電LEDの赤色が正常に点灯することを確認してください。<br>フットブレーキ検出を使用せずにP/N検出を使用する場合は、必ずメインユニットの設定スイッチA(左側)No.2（P/N検出）を「P/N検出」（ON側）に切り替えてください。 |
| ●▬●● ●▬●● | L端子エラー<br>L端子の配線が誤っている可能性があります。<br>配線を確認してください。（下記参考参照） |
| ●●▬▬ ●●▬▬ | サイドブレーキ検出エラー<br>サイドブレーキ検出を使用しない場合は、メインユニットの設定スイッチA（左側）No.1（サイドブレーキ検出キャンセル）が「キャンセルする」（ON側）になっているかどうか確認してください。サイドブレーキ検出を使用する場合は、サイドブレーキ検出コード（車種別専用ハーネス付属の細い橙コード）の配線が誤っている可能性があります。サイドブレーキ検出コードの配線を確認してください。 |
| ●▬●▬ ●▬●▬ | バッテリー容量エラー<br>車両バッテリーの電圧が低く、セルモーターを回せません。車両のバッテリーを充電してください。<br>（バッテリー上がりを未然に防ぐための機能です） |
| ●▬▬● ●▬▬● | 始動判断エラー1（始動判断できない）<br>セルは回るが、エンジンがスタートしない場合 セルモーターの作動時間が短いことが考えられます。アンテナユニットの設定スイッチNo.2（セル回転時間）を「長い」（ON側）に切り替えてください。また、イモビ付車対応アダプター(TE412など）を使用している場合は、アダプターが正常に取り付けられているか確認してください。<br>エンジン始動後すぐに止まってしまう場合 車両特性によりエンジンの始動判断が行なえません。メインユニットの設定スイッチA（左側）No.4（ノイズ検出）を「する」（ON側）に切り替えてください。それでも始動判断が正常に行われない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子コード（茶色の細い線）を接続してください。（下記参考参照） |
| エンジンが始動しないのに点灯したままの状態が続く場合 | 始動判断エラー2（誤った始動判断を行なう）<br>車両特性により、誤った始動判断を行なっています。メインユニットの設定スイッチA(左側)No.3（ホンダABS）の設定を確認してください。解決しない場合はさらにメインユニットの設定スイッチNo.4（ノイズ検出）を「しない」（OFF側）に切り替えてください。<br>それでも始動判断が正常に行われない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子コード（茶色の細い線）を接続してください。（下記参考参照） |

参考 L端子コードとは、エンジンルーム内のオルタネータから出ているコードのうち、①バッテリーへ行く太いコード以外で、②イグニッションON時に+1～+2Vが出ていて、③エンジン始動後+12Vが出るコードです。

# 故障かな？と思ったら

| | 症　状 | 解　説 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| リモコンについて | 車の近くにいるのにリモコンに "圏外" と表示される | 本品の" 圏外" 表示は、一定間隔（約30秒）毎に状態が更新されるようになっています。そのため、実際は通信圏内にあっても" 圏外" と表示されていたり、また実際は通信圏外でも" 圏外" 表示が出ない事があります。また、周囲の電波状況などによっても" 圏外" の表示が出ることがありますが、これは異常ではありません。 | P22（参考欄） |
| | リモコンの液晶画面に "LV ▂"と表示される | セキュリティONの状態でリモコンの電源スイッチをOFF→ONした場合は" LV ▂"の表示が出ますが異常ではありません。 | P21（参考欄） |
| | | スペアリモコンでセキュリティをONした場合は"LV ▂"の表示が出ますが異常ではありません。 | P64（参考欄） |
| | リモコンのボタンを操作した時に、リモコンが「ピピピ」と鳴って赤色のバックライトが光る | センサーが反応してリモコンへの通報が行なわれた後、そのままリモコンを操作しないでいると、通報された警報レベルが「履歴表示」として液晶画面に残りますが、この「履歴表示」中にリモコン操作を行なった場合、履歴表示を見逃してしまうことを防ぐためにこのような表示が行なわれます。尚、再度操作をすることで正常に動作します。 | P27 |
| | リモコンが操作できない | リモコンの電池が切れていませんか?<br>リモコンの充電を行なうか、電池を交換してから操作してください。 | P18~P19·P65 |
| | | リモコンのボタンがロックされていませんか?<br>ボタンのロックを解除してください。 | P31 |
| | リモコンの画面表示がおかしい | 充電池の残量が減ったため、リモコン内部のマイコンが正常に動作していない可能性があります。リモコンの電源スイッチをOFFにしてからリモコンの充電を行ってください。 | P18~19·P65 |
| | 常に圏外表示が出て操作できない | メインユニットのヒューズが切れていませんか?<br>配線を再確認してから新しいヒューズ（別売）を差し込んでください。 | P66 |
| | | リセットスイッチが外れていたりOFFになっていませんか?<br>リセットスイッチをONにしてから操作を行なってください。 | P14·67 |
| | | 何らかの理由で、アンテナユニットに記憶されているはずのリモコンIDが消失している可能性があります。IDの書き込み方法に従ってリモコンIDを書き込んでください。 | P64 |
| | リモコンの充電ができない | 専用電池以外の電池を使っていませんか?<br>本品は専用充電池以外の電池には充電が行なえません。 | P65·P18 |
| | | 充電端子が汚れていませんか?<br>充電端子をやわらかい布などで拭きとってください。 | P19 |
| | | リモコンの電池は正しく入っていますか?<br>入っていない場合はリモコンに電池を入れてください。 | P65 |
| | 充電後、電池残量警告マークがすぐ点灯する | 電池寿命の可能性があります。新しい電池と交換してください。 | P65 |
| | | 電池の特性上、使用される場所の温度が低い場合は電池残量警告マークが点灯しやすくなります。 | P19（参考欄） |
| | ドアを開けてもリモコンの「ドアマーク」が点灯せず「HI」が点灯する | 電流センサーによるドア検出を行なっている場合、リモコンへの通報は「HI」で行なわれます。 | P32 |
| | リモコンでエンジンを止めることができない | キーでエンジンを掛けている時は、リモコンでのエンジン停止は行なえません。 | P25 |
| | Aボタンでセキュリティ ONした時、LV 3 にならない | セキュリティレベルの標準設定が変更されていませんか?<br>変更されている場合は再度設定を行なってください。 | P34 |
| | リモコンの音が鳴らない | リモコンのブザー音が鳴らないようになっていませんか?<br>鳴らないようになっている場合は設定を解除してください。 | P30 |

# 故障かな？と思ったら

| | 症　状 | 解　説 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| セキュリティ機能について | 車を叩いてもショックセンサーが反応しない | 2段階ショックセンサーの感度調整が弱すぎる恐れがあります。<br>適切な感度になるように感度を強めてください。 | P38 |
| | | 2段階ショックセンサーはしっかり固定されていますか?固定されていない場合は、車両内装部分にしっかりと取付けてください。 | – |
| | | 本品は「電磁誘導式」の新型センサーを採用したため、不確実な外部振動に対しては反応しにくくなっています。その結果、誤作動の可能性は減少しており、不必要な警報が行なわれにくくなっています。<br>SQ1000・3000シリーズと比較した場合センサー感度が弱いと感じることがあります。 | – |
| | 2段階ショックセンサーのLEDインジケータが反応しているのにサイレンが鳴らない | セキュリティがONになっているかどうか確認してください。<br>セキュリティがOFFの場合はセキュリティをONにしてください。<br>（セキュリティOFFの状態でも2段階ショックセンサーのLEDは衝撃に反応して点灯します。） | P22 |
| | | セキュリティレベルの切替は適切ですか?<br>セキュリティレベルをLv3などに切り替えてください。 | P32～P34 |
| | | 注意・警告音がカットされていませんか?<br>注意・警告音カットを「しない」に設定してください。 | P43 |
| | | オンタイマー機能が働いていませんか?<br>オンタイマー機能の設定を確認してください。 | P58 |
| | | エンジンスターター機能およびターボタイマー機能によるアイドリング中は、誤作動を防ぐため衝撃センサーが反応しません。 | P27 |
| | | イグニッションがONになっていませんか?ショックセンサーはイグニッションOFFの状態でしか作動しません（2段階ショックセンサーのLEDは衝撃に反応して点灯します）。 | P26～P27 |
| | 2段階ショックセンサーが反応しない時がある | 2段階ショックセンサーに連続して衝撃を加えた場合、1回反応してから約3.5秒間は次の警報を行なわないようになっていますが異常ではありません。 | P38 |
| | | 微衝撃センサーの反応時（標準ショックセンサー警報レベル「L」の時→P41）および、オプションケーブルの注意入力コード（青）に接続したオプションが反応した場合、実際にサイレンが鳴るまでおよそ1秒弱の間隔がありますが異常ではありません。 | – |
| | 2段階ショックセンサーが反応してからサイレンが鳴るまで時間が掛かる | 2段階ショックセンサーに連続して衝撃を加えた場合、1回反応してから約3.5秒間は次の警報を行なわないようになっていますが異常ではありません。 | P38 |
| | | 微衝撃センサーの反応時（標準ショックセンサー警報レベル「L」の時→P41）および、オプションケーブルの注意入力コード（青）に接続したオプションが反応した場合、実際にサイレンが鳴るまでおよそ1秒弱の間隔がありますが異常ではありません。 | P38 |
| | ドアを開けてもサイレンが鳴らない | 電流センサーによるドア検出を行なっている場合、ルームランプが「DOOR」の位置になっている必要があります。<br>また、電流センサーの感度設定も併せて確認してください。 | P55～P56 |
| | | 残光機能付きの車両の場合、セキュリティをONにしてからルームランプやキーリング照明などが消えてからでなければ、ドアセンサーが働かない場合があります。 | – |

# 故障かな？と思ったら

| | 症　状 | 解　説 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| セキュリティ機能について | 何も異常が無いのに警報が鳴る | 2段階ショックセンサーの感度調整が強すぎる恐れがあります。<br>適切な感度になるように感度を弱めてください。 | P38 |
| | | 電流センサーがONになっている場合、車両側の電装品やファンなどが動いた際に電流センサーが反応してサイレンが鳴ることがありますが本品の異常ではありません。（車両によってエンジン停止中に自動的に作動する電装品やファンなどがある場合がありますのでご注意ください。）<br>このような車両の場合、電流センサーは使用せずに、ドア検出コードの配線を行なう必要があります。 | P55～P56 |
| | | 温度変化などにより車両の内外装パーツ（特に樹脂部品の勘合部）が膨張・収縮して2段階ショックセンサーが反応している可能性があります。 | – |
| | | 車上荒らし・車両窃盗犯がセキュリティを解除させる目的で、特に夜間、故意に車両に衝撃を与えて様子を伺う事例が報告されていますのでご注意ください。<br>※ご自分で犯人を捕まえようとする行為は大変危険です。このような場合は、警察に相談されることを強くおすすめします。 | – |
| | | セキュリティON時にAボタンを長押しするとパニックアラーム機能が働き、強制的にサイレンが鳴りますのでご注意ください。 | P36・P22 |
| | セキュリティONすると突然サイレンが鳴る | セキュリティON時にAボタンを長押しするとパニックアラーム機能が働き、強制的にサイレンが鳴りますのでご注意ください。 | P36・P22 |
| | | 電流センサーがONになっている場合、車両側の電装品やファンなどが動いた際に電流センサーが反応してサイレンが鳴ることがありますが本品の異常ではありません。（車両によってエンジン停止中に自動的に作動する電装品やファンなどがある場合がありますのでご注意ください。）<br>このような車両の場合、電流センサーは使用せずに、ドア検出コードの配線を行なう必要があります。 | P55～P56 |
| | リモコンへの通報は行なわれるが、<br>6音色サイレンが鳴らない | セキュリティレベルが”Lv3S”に設定されていませんか？<br>セキュリティレベルを設定しなおしてください。 | P32～P34 |
| | | 注意・警告音がカットされていませんか？<br>注意・警告音カットを「しない」に設定してください。 | P43 |
| | | 6音色サイレンのコネクタが指定位置にしっかりと差し込まれているかどうか確認してください。 | – |
| | 電流センサーが反応しない | 電流センサーは車両によって反応しにくかったり反応できない場合があります。これは車両の特性によるものですので、電流センサーの感度を切り替えても解決しない場合はドア検出コードを配線する必要があります。 | P55～P56 |
| | | 電流センサーによるドア検出を行なっている場合、ルームランプが「DOOR」の位置になっている必要があります。<br>また、電流センサーの感度設定も併せて確認してください。 | P55～P56 |
| | スターターカット機能が作動しない | 直接配線キットSQ110で取り付けている場合はスターターカット機能が働きません。 | P54 |
| | | 出荷時の設定状態では、スターターカット機能の設定が行なわれていません。<br>スターターカット機能を設定してください。 | P54 |
| | アンテナユニットのLEDスキャナーが<br>点灯しない | LEDスキャナー機能がOFFになっていませんか？<br>LEDスキャナー機能をONにしてください。 | P44 |

# 故障かな？と思ったら

| | 症　　状 | 解　　説 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| エンジンスターター・ターボタイマー機能について | エンジンスターター機能が使用できない | P/N検出データが消失していませんか？<br>再度データを書き込んでください。 | P67・P62 |
| | | エンジンスターター機能は適合車種のみ使用可能です。また、直接配線キットSQ110で取り付けている場合はエンジンスターター機能（ターボタイマー機能およびスターターカット機能も含めて）が使用できませんのでご注意ください。 | – |
| | | その他の原因の場合は「エンジンスターター機能が作動しない場合」を参照の上、確認作業を行なってください。 | P68～P69 |
| | 突然エンジンスターター機能が使えなくなってしまった | P/N検出データが消失していませんか？<br>再度データを書き込んでください。 | P67・P62 |
| | ターボタイマーが作動しない | ターボタイマー機能の設定が正しく行なわれていますか？<br>特に、設定スイッチを切り替えた後に、リモコンからエンジンストップの操作を行なうことを忘れていませんか？ | P40 |
| | エンジンスターター・ターボタイマーのアイドリング中、純正リモコンドアロックが作動しない | ほとんどの純正リモコンドアロック装着車は、車両の仕様上エンジン始動中に純正リモコンドアロックが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能およびターボタイマー機能によるアイドリング中は、本品のドアアンロック機能を使用するか、キーシリンダーを使用してドアを開ける必要があります。 | – |
| その他の症状 | 全く作動しない | リセットスイッチが外れていたりOFFになっていませんか？<br>リセットスイッチをONにしてから操作を行なってください。 | P14・67 |
| | | メインユニットのヒューズが切れていませんか？<br>配線を再確認してから新しいヒューズ（別売）を差し込んでください。 | P66 |
| | | リモコンの電池が切れていませんか？<br>リモコンの充電を行なうか、電池を交換してから操作してください。 | P18～P19・P65 |
| | | リモコンの電池は正しく入っていますか？<br>入っていない場合はリモコンに電池を入れてください。 | P65 |
| | 通信距離が短い | アンテナが収納された状態の場合、通信距離は短くなります。<br>できるだけアンテナを伸ばした状態で操作してください。 | – |
| | | リモコンと車の間に電波を遮断する障害物が多いことが考えられます。特に金属物質は電波を通しにくく、通信距離を著しく縮めますので使用の際はご注意ください。 | – |
| | ドアロック機能が使用できない | ドアロック機能はドアロック適合車種のみ使用可能です。<br>また、ドアロック機能を使用するには別途ドアロックコードの配線が必要となりますのでご注意ください。 | – |
| | | ドアが開いているとドアロックモーターが作動しない車種がありますので、ドアを閉めてからドアロックの操作を行なってください。 | P22 |
| | キーによるエンジン始動ができない | 本品の「スターターカット機能」が働いていませんか？<br>セキュリティをOFFにしてから再度始動を試みてください。 | P54 |
| | | 専用ハーネスが緩んでいたり、本品のメインユニットが接続されていない場合、キーによるエンジン始動ができなくなります。<br>接続が確実に行なわれているかどうか確認してください（キーでイグニッションをONにした時に、メインユニットの検電LEDの緑が光っているかどうか確認してください）。 | – |
| | ドアをアンロック（セキュリティOFF）すると車両の純正ホーンが鳴る | 純正のセキュリティアラームなどが装備されている車両の場合、純正リモコンドアロックでドアをロックした後、本品でドアアンロックを行なうと、純正セキュリティアラームが異常と判断してホーンを鳴らす場合がありますが異常ではありません。<br>このような車両の場合、ロック操作とアンロック操作を同一のリモコンで行なう必要があります。 | – |
| | その他、動作が不安定な場合 | 13Pハーネスのアースコードが確実なアースポイントに接続されているか確認してください。 | – |

# 仕　様

## ■リモコン

| | |
|---|---|
| 外　形　寸　法 | 91x35x20(mm) |
| 重　　量 | 約60g |
| 使　用　電　池 | SQ5000専用<br>ニッケル水素充電池×1<br>※緊急時市販の単4型電池使用可能 |
| 電　池　寿　命 | 約1年<br>（3日に1回充電の場合） |
| 作動温度範囲 | 0℃ ～ +50℃ |

## ■メインユニット

| | |
|---|---|
| 外　形　寸　法 | 98x158x28(mm)<br>（突起部含む） |
| 重　　量 | 約220g |
| 電　源　電　圧 | DC12V |
| 消　費　電　流 | 約16mA（待機時）<br>（スリープモード付） |
| 作動温度範囲 | −20℃ ～ +70℃ |

## ■アンテナユニット

| | |
|---|---|
| 外　形　寸　法 | 82x50x15(mm)<br>（アンテナ部除く） |
| 重　　量 | 約120g |
| コ　ー　ド　長 | 約2.9m |
| 作動温度範囲 | −20℃ ～ +70℃ |

## ■2段階ショックセンサー

| | |
|---|---|
| 外　形　寸　法 | 42x60x25(mm) |
| 重　　量 | 約30g |
| コ　ー　ド　長 | 約0.9m |
| 作動温度範囲 | −20℃ ～ +70℃ |
| セ　ン　サ　ー | 微衝撃･高衝撃の2段階（調整式） |

## ■6音色サイレン

| | |
|---|---|
| 外　形　寸　法 | 70x55x40(mm) |
| 重　　量 | 約135g |
| コ　ー　ド　長 | 約3.9m |
| 最　大　音　圧 | 約120dB |
| 作動時消費電流 | 約250mA（最大）<br>約160mA（平均） |
| 作動温度範囲 | −20℃ ～ +70℃ |

## ■リモコン充電スタンド

| | |
|---|---|
| 外　形　寸　法 | 42x56x70(mm) |
| 重　　量 | 約55g |
| 電　源　電　圧 | DC6V |
| 消　費　電　流 | 約150mA（通常充電時）<br>約350mA（急速充電時） |
| 作動温度範囲 | 0℃ ～ +40℃ |

## ■家庭用充電アダプター

| | |
|---|---|
| 入　力　電　圧 | AC100V　50/60Hz |
| コ　ー　ド　長 | 約1.7m |

## ■車載用充電アダプター

| | |
|---|---|
| 入　力　電　圧 | DC12V |
| コ　ー　ド　長 | 約1.7m |